

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
経済経営基礎演習	大野 正智	1
経済経営基礎演習	田口 誠	5
経営課題研究I	井上 淳子	9
経営課題研究II	井上 淳子	13
クリティカルシンキング	向井 三貴	17
ミクロエコノミクス基礎研究	川越 俊彦	21
マクロエコノミクス基礎研究	井上 智夫	25
企業経営基礎研究I	伊藤 公哉	29
企業経営基礎研究II	伊藤 克容	33
統計学基礎研究	井上 潔司	37
経済経営史基礎研究	松本 貴典	41
経営戦略研究	浜松 翔平	45
消費者行動研究	井上 淳子	49
マーケティング研究	石井 裕明	53
産業組織と企業戦略	平尾 由紀子	57
社会心理学研究	義村 敦子	61
人間情報処理研究	山崎 由香里	65
国際会計研究	高橋 史郎	69
租税法基礎研究	伊藤 公哉	73
データ分析基礎研究	田中 研太郎	77
エコノメトリクス基礎研究	鷹岡 澄子	81
統計調査研究	井出 多加子	85
公共経済学研究	中神 康博	89
環境マネジメント研究	田口 誠	93
福祉問題研究	丸山 桂	97
資産選択理論研究	時岡 規夫	101
上級理論研究(応用ミクロ経済分析5)	吉田 由寛	105
上級理論研究(応用ミクロ経済分析6)	吉田 由寛	109
学際分野特殊研究(力学系の理論と応用)	藤垣 芳文	113
Current Topics	山上 浩明	117

科目名	経済経営基礎演習		
教員名	大野 正智		
科目ナンバー	2030710001	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要			
<p>経済学を基礎とし、将来の研究が円滑に開始できるように、研究を行うための基礎的作法、作業、方法を習得する。理論研究を中心に行おうとする場合は、過去の研究成果の概観、今日の未解決問題への接近方法の習得を中心に行う。実証研究を中心に行おうとする場合は、検証可能なデータの所在と理解、仮説と検証方法との整合性への認識を中心に行う。</p>			

到達目標			
<p>研究者養成コース：DP1・DP2（専門分野の知識・理解）、DP3（研究能力及び発信力） 高度職業人養成コース：DP4・DP6（専門分野の知識・理解）、DP7・DP8（総合マネジメント力）、DP9（他者との協働）、DP10（表現力及び発信力）を実現するため、次の点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学院レベルの経済学を理解し、new, interesting, and feasibleとなるような課題テーマを見つけることができる。 2. 課題テーマに沿って既存文献の理解を深め、過去の研究成果の概観をできる。 3. 報告が随時できるように準備を進め、報告用資料の基本形を作成することができる。 			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	今までの学習状況や今後研究を進めていく上での留意点を確認する。		120
第2回	課題の探究 1		
	文献とそこに展開されている分析手法を学習することによって、各自の課題テーマの方法性を探る。		120
第3回	課題の探究 2		
	文献とそこに展開されている分析手法を学習することによって、各自の課題テーマの方法性を探る。		120

第4回	課題の探究 3	
	文献とそこに展開されている分析手法を学習することによって、各自の課題テーマの方法性を探る。	120
第5回	課題の探究 4	
	文献とそこに展開されている分析手法を学習することによって、各自の課題テーマの方法性を探る。	120
第6回	既存研究の報告 1	
	課題テーマに基づき、予習として既存研究の発表準備をする。 復習として、授業での意見交換を次の進展に反映させる。	120
第7回	既存研究の報告 2	
	課題テーマに基づき、予習として既存研究の発表準備をする。 復習として、授業での意見交換を次の進展に反映させる。	120
第8回	既存研究の報告 3	
	課題テーマに基づき、予習として既存研究の発表準備をする。 復習として、授業での意見交換を次の進展に反映させる。	120
第9回	既存研究の報告 4	
	課題テーマに基づき、予習として既存研究の発表準備をする。 復習として、授業での意見交換を次の進展に反映させる。	120

第10回	既存研究の報告 5	
	課題テーマに基づき、予習として既存研究の発表準備をする。 復習として、授業での意見交換を次の進展に反映させる。	120
第11回	研究成果の報告 6	
	課題テーマに基づき、予習として既存研究の発表準備をする。 復習として、授業での意見交換を次の進展に反映させる。	120
第12回	既存研究の報告 7	
	課題テーマに基づき、予習として既存研究の発表準備をする。 復習として、授業での意見交換を次の進展に反映させる。	120
第13回	最終報告 1	
	今までの学習を整理する。	120
第14回	最終報告 2	
	今までの学習を整理する。	120
第15回	最終報告 3	
	今までの学習を整理し、次年度へ向けたまとめとする。	120

授業の方法

演習形式。授業内における研究報告・意見交換、および、授業外における研究成果物の作成が中心となる。

成績評価の方法

授業内報告（60%）、提出物（40%）。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

1. new, interesting, and feasibleとなるようなテーマを見つける素養がある。
2. 過去の研究成果の概観できる。
3. 報告用資料のひな形を作成できる。
4. 適切に向けた時間管理ができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

必要に応じて授業中に紹介する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	経済経営基礎演習		
教員名	田口 誠		
科目ナンバー	2030710001	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

テーマ：「大学院における研究活動の方法について学ぶ」

大学院では学位の取得に向けて研究活動を進めていくことになりますが、この演習では、経営学の研究に必要な大学院レベルの教科書を理解する力を身につけるとともに、文献収集の方法や研究手法の基礎についても学びます。

到達目標

研究者養成コース：DP11・DP12（専門分野の知識・理解）、DP3（研究能力及び発信力）

高度職業人養成コース：DP14・DP16（専門分野の知識・理解）、DP17・DP18（総合マネジメント力）、DP19（他者との協働）、DP20（表現力及び発信力）を実現するため、次の点を到達目標とする。

1. 大学院レベルの教科書の内容を理解できるようにすること
2. 研究領域に関する文献の収集方法を身につけること
3. 基礎的な研究手法について知ること

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	イントロダクション ・授業の内容や進め方について説明する。	
	【復習】授業の内容を振り返り、今後の学修計画について考える。	120
第2回	経営学の基礎 ・経営学の各分野について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第3回	経営組織論(1) ・組織構造について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120

第4回	経営組織論（2） ・人的資源管理について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第5回	経営組織論（3） ・組織行動について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第6回	経営戦略論（1） ・経営戦略の理論について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第7回	経営戦略論（2） ・競争戦略の理論について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第8回	経営戦略論（3） ・経営戦略に関するその他の論点について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第9回	マーケティング（1） ・マーケティングに関する理論について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120

第10回	マーケティング（2） ・ブランド論について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第11回	消費者行動 ・消費者行動の理論について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第12回	ファイナンス ・コーポレート・ファイナンスについて	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第13回	意思決定論 ・意思決定の理論について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第14回	その他の研究分野 ・社会的責任論、経営史などについて	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第15回	全体のまとめ 質疑応答	
	【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。これまでに学修した内容を整理する。	120

授業の方法

教科書を輪読する。
報告者の説明およびレジュメをもとにテキストの内容を確認し、ディスカッションする。

成績評価の方法

授業内での報告（50%）および提出物（50%）にもとづき総合的に評価する。
学期末試験は実施しない。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

次の点に着目し、その達成度によって評価する。

1. 教科書の内容を理解し、作成したレジュメにしたがって他者に論理的な説明ができる。
2. データベースを用いて、研究領域や研究キーワードに関連する文献の収集ができる。
3. 定性的・定量的な研究手法の基礎を理解している。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

授業で指示する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。
オフィスアワーについてはポータルサイトで周知する。

科目名	経営課題研究 I		
教員名	井上 淳子		
科目ナンバー	2030712013	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要	
<p>特定課題研究の成果をまとめるための授業です。自身が設定したテーマに則して研究を進め、中間報告会での発表と最終的な特定課題研究報告書を作成します。</p>	

到達目標	
<p>DP14・15・16（専門分野の知識・理解）、DP17（論理的思考力）、DP18（総合マネジメント力）、DP19（他社との協働）、DP20（表現力及び発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①自らの問題意識に従って、専門分野の知識、理解を深めるとともに、問題解決の道筋を論理的に思考して研究を進め、特定課題研究報告書をまとめる。</p> <p>②特定課題研究中間報告会で研究成果を発表し、質疑に対して適切に対応できる。</p>	

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	マーケティング論および消費者行動論の復習をして、基礎知識を整理しておく。	120
第2回	課題の決定①	
	既存研究を読み、課題を絞り込む。	120
第3回	課題の決定②	
	既存研究を読み、課題を絞り込む。	120

第4回	課題の決定③	
	既存研究を読み、課題を絞り込む。	120
第5回	課題の決定④	
	既存研究を読み、課題を絞り込む。	120
第6回	課題の決定⑤	
	既存研究を読み、課題を絞り込む。	120
第7回	研究成果の報告①	
	継続的に研究を行う。	120
第8回	研究成果の報告②	
	継続的に研究を行う。	120
第9回	研究成果の報告③	
	継続的に研究を行う。	120

第10回	研究成果の報告④	
	継続的に研究を行う。	120
第11回	研究成果の報告⑤	
	継続的に研究を行う。	120
第12回	研究成果の報告⑥	
	継続的に研究を行う。	120
第13回	研究成果の報告⑦	
	継続的に研究を行う。	120
第14回	中間報告会の準備①	
	これまでの研究成果を整理する	120
第15回	中間報告会の準備②	
	これまでの研究成果を整理する。	120

授業の方法

基本的に演習形式で進めます。受講生は毎回研究成果の報告と提出が求められます。報告内容に基づいてディスカッションを行います。

成績評価の方法

各回の報告・議論への参加（40%）および提出された研究成果（60%）によって総合的に評価します。DP14・15・16（専門分野の知識・理解）、DP17（論理的思考力）、DP18（総合マネジメント力）、DP19（他社との協働）、DP20（表現力及び発信力）の基準に照らして到達レベルを評価します。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

マーケティング論、消費者行動論、競争戦略論

テキスト

特に指定しません。

参考書

課題に応じて適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	経営課題研究II		
教員名	井上 淳子		
科目ナンバー	2030712014	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要
 特定課題研究の成果をまとめるための授業です。毎回、個人が進めている研究の内容および進捗を報告し、特定課題研究口頭発表の準備と特定課題研究報告書の作成を行います。

到達目標
 DP14・15・16（専門分野の知識・理解）、DP17（論理的思考力）、DP18（総合マネジメント力）、DP19（他社との協働）、DP20（表現力及び発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。
 ①自らの問題意識に従って、専門分野の知識、理解を深めるとともに、問題解決の道筋を論理的に思考して研究を進め、特定課題研究報告書をまとめる。
 ②特定課題研究報告会で研究成果を発表し、質疑に対して適切に対応できる。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	中間報公開の最終準備	
	現時点での研究成果を整理してまとめる。	120
第2回	研究成果の報告①	
	継続的に研究を行う。	120
第3回	研究成果の報告②	
	継続的に研究を行う。	120

第4回	研究成果の報告③	
	継続的に研究を行う。	120
第5回	研究成果の報告④	
	継続的に研究を行う。	120
第6回	研究成果の報告⑤	
	継続的に研究を行う。	120
第7回	研究成果の報告⑥	
	継続的に研究を行う。	120
第8回	研究成果の報告⑦	
	継続的に研究を行う。	120
第9回	研究成果の報告⑧	
	継続的に研究を行う。	120

第10回	研究成果の報告⑨	
	継続的に研究を行う。	120
第11回	研究成果の報告⑩	
	継続的に研究を行う。	120
第12回	最終研究成果の報告①	
	最終研究成果を作成する。	120
第13回	最終研究成果の報告②	
	最終研究成果を作成する。	120
第14回	最終研究成果の報告③	
	最終研究成果を作成する。	120
第15回	最終研究成果の報告④と面接試験の準備	
	最終面接のための準備をする。	120

授業の方法

基本的に演習形式で進めます。受講生は毎回研究成果の報告と提出が求められます。報告内容に基づいてディスカッションを行います。

成績評価の方法

各回の報告・議論への参加（40%）および提出された研究成果（60%）によって総合的に評価します。DP14・15・16（専門分野の知識・理解）、DP17（論理的思考力）、DP18（総合マネジメント力）、DP19（他社との協働）、DP20（表現力及び発信力）の基準に照らして到達レベルを評価します。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

マーケティング論、消費者行動論、競争戦略論。

テキスト

特に指定しません。

参考書

課題内容に応じて、適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	クリティカルシンキング		
教員名	向井 三貴		
科目ナンバー	2030713001	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要
 この授業では、物事を論理的・構造的にとらえる考え方や手法を学びます。具体的には、問題解決や新規企画立案等を論理的なプロセスで行う、実践的なスキルを習得します。この中で、論理的な思考方法やアプローチ、判断や意思決定の根拠となる情報収集・加工技術も習得します。また、企業の問題点を論理的に解決する、ケーススタディ演習を行います。さらに、グループでのディスカッションや演習を通して、コミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルの向上を図ります。

到達目標
 【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解), DP3(研究能力及び発信力)
 【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解), DP7(論理的思考力), DP8(総合マネジメント力), DP9(他社との協働), DP10(表現力及び発信力)
 【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解), DP12(研究能力及び発信力)
 【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解), DP17(論理的思考力), DP18(総合マネジメント力), DP19(他社との協働), DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。
 ①論理的な思考方法を身につける。
 ②問題や課題を論理的に解決できる。
 ③根拠を示して論理的に説得できるプレゼンテーションスキルを身につける。
 ④グループディスカッション・コミュニケーションスキルを身につける。
 ⑤グループディスカッションのファシリテータができる。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習、課題の仕方を説明する。 クリティカルシンキングの意義とメリット ・クリティカルシンキングとロジカルシンキングの思考方法を学修する。	
	(復習) ・クリティカルな思考方法を理解しておく。	60
第2回	ロジカルシンキングのツール1/2 マトリックス(フレームワーク思考ツール) ・ロジカルシンキングのツールであるマトリックスについて学修する。 課題1(ポジショニング) 課題2(swtokロス分析)	
	(復習) ・課題1、2の準備をする。	60
第3回	ロジカルシンキングのツール2/2 ロジックツリー(要素分解ツール) ・ロジックツリーの種類(what, why, howツリー)と分析方法について学修する。 プレゼンテーション (課題1ポジショニング課題2swotクロス分析) 課題3(why, howツリー)	
	(復習) ・課題3の準備をする。	60
第4回	情報の意味と役割 ・クリティカルシンキングの根拠として活用する情報の種類と特性について学修する。 プレゼンテーション(課題3 why, howツリー) 課題4(トレンドの根拠)	

	(復習) ・課題4の準備をする。	60
第5回	クリティカルシンキングのプロセス（自己分析とキャリア開発） ・自己のキャリア開発を題材にSWOT分析を活用したプロセスを学修する。 課題5（キャリア開発） ケーススタディ 課題1	
	(復習) ・課題5の準備をする。	60
第6回	ディスカッション方法 ・ブレインストーミングのルール・方法、ディスカッション時の発言の仕方を学修する。 グループコミュニケーションルールの作成 プレゼンテーション(課題4 トレンドの根拠) ケーススタディディスカッション1/2	
	(予習) ・ケーススタディを熟読する。	60
第7回	クリティカルシンキングのプロセス（新規企画） ・新規企画を行う際のプロセスと根拠について学修する。 プレゼンテーション(課題5 キャリア開発) 課題6（新規企画）	
	(復習) ・課題6の準備をする。	60
第8回	ケーススタディ発表&ディスカッション	
	(予習) ・ケーススタディの解答を考える。	60
第9回	問題解決技法 ・様々な問題を論理的に解決するための方法を学修する。 プレゼンテーション（課題6 新規企画） グループ課題（問題解決） ・問題や課題をグループで解決する。	
	(復習) ・問題解決の課題を考える。	60
第10回	問題解決 グループ実習1/2	

	(予習) ・問題を分析してくる。	60
第11回	問題解決 グループ実習2/2	
	(予習) ・解決策案を考える。	60
第12回	プレゼンテーション（問題解決）とQ&A ケーススタディ課題2	
	(予習) ・グループプレゼンテーションの練習をする。 (復習) ・ケーススタディを熟読する。	60
第13回	ケーススタディ グループ演習	
	(予習) ・ケーススタディの解答を検討する。	60
第14回	グループ発表とQ&A、ディスカッション	
	(予習) ・グループプレゼンテーションの練習をする。	60
第15回	授業のまとめ	
	(予習) ・クリティカルシンキングの意義を復習する。	60
授業の方法		

授業は講義、グループワーク、ケーススタディ演習、プレゼンテーションなど学生参画型で進めます。学生は、グループワークに積極的に参加する必要があります。また、プレゼンテーションの準備はもちろん、他の学生のプレゼン評価を行うなど双方向の授業を達成するために意欲的に取り組むことが重要です。

成績評価の方法

課題(60%) グループワーク(20%) 授業中の発言・質問、予習・復習・プレゼンや課題の積極的な取り組みを総合評価(20%)

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準(学則第11条の2)に準拠する。

以下の点に着目して、その達成度により評価します。

- ①ロジカルシンキングのツールを理解し、実践に活用できる。
- ②クリティカルシンキングのプロセスを理解し、実践に活用できる。
- ③物事の全体を把握し、個々の事象を分析できる。
- ④グループワークに積極的に参加している。
- ⑤説得力のあるプレゼンテーションができる。

必要な予備知識/先修科目/関連科目

適宜、指示します。

テキスト

オリジナルテキスト

参考書

適宜、指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。また、随時eメール(miki.mukai@gmail.com)でも受け付けます。

科目名	ミクロエコノミクス基礎研究		
教員名	川越 俊彦		
科目ナンバー	2030721001	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

ミクロ経済学は個人や企業の行動、市場を分析するための根幹をなすものです。この授業では、学部で学んだミクロ経済学をより厳密な枠組みで理解を深めることを目標に、演習形式で学びます。更に、ミクロ経済学を単なる知識としてではなく、実際の様々な経済事象を分析・解釈するツールとして使いこなせることを目指します。

到達目標

- 【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解), DP3(研究能力及び発信力)
【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解), DP7(論理的思考力), DP8(総合マネジメント力), DP9(他社との協働), DP10(表現力及び発信力)
【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解), DP12(研究能力及び発信力)
【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解), DP17(論理的思考力), DP18(総合マネジメント力), DP19(他社との協働), DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。
- ①ミクロ経済学の基礎を理解している。
 - ②様々な経済事象を、ミクロ経済理論を用いて分析、解釈することができる。
 - ③経済分析の結果を、ミクロ経済学の用語を適切に用いて説明することができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	オリエンテーション 授業の運営方法と計画について	
	【予習】学部で学んだミクロ経済学の教科書に目を通しておく。	120
第2回	消費者行動の理論1(効用関数、無差別曲線と最適消費の考え方) 報告とディスカッション	
	【予習】指定されたテーマを予習しておく。 【復習】課題に取り組む、もしくは、授業の内容について理解を深めておく。	90
第3回	消費者行動の理論2(限界分析の基礎) 報告とディスカッション	
	【予習】指定されたテーマを予習しておく。 【復習】課題に取り組む、もしくは、授業の内容について理解を深めておく。	90

第4回	消費者行動の理論3（無差別曲線の凸性について） 報告とディスカッション	
	【予習】 指定されたテーマを予習しておく。 【復習】 課題に取り組む、もしくは、授業の内容について理解を深めておく。	90
第5回	消費者行動の理論4（支出関数、所得効果と代替効果） 報告とディスカッション	
	【予習】 指定されたテーマを予習しておく。 【復習】 課題に取り組む、もしくは、授業の内容について理解を深めておく。	90
第6回	企業行動の理論1（企業とは何か） 報告とディスカッション	
	【予習】 指定されたテーマを予習しておく。 【復習】 課題に取り組む、もしくは、授業の内容について理解を深めておく。	90
第7回	企業行動の理論2（短期費用関数と供給曲線） 報告とディスカッション	
	【予習】 指定されたテーマを予習しておく。 【復習】 課題に取り組む、もしくは、授業の内容について理解を深めておく。	90
第8回	企業行動の理論3（2生産要素の企業モデル） 報告とディスカッション	
	【予習】 指定されたテーマを予習しておく。 【復習】 課題に取り組む、もしくは、授業の内容について理解を深めておく。	90
第9回	企業行動の理論4（長期費用関数と供給曲線） 報告とディスカッション	
	【予習】 指定されたテーマを予習しておく。 【復習】 課題に取り組む、もしくは、授業の内容について理解を深めておく。	90

第10回	市場均衡1（部分均衡分析） 報告とディスカッション	
	【予習】 指定されたテーマを予習しておく。 【復習】 課題に取り組む、もしくは、授業の内容について理解を深めておく。	90
第11回	市場均衡2（応用例） 報告とディスカッション	
	【予習】 指定されたテーマを予習しておく。 【復習】 課題に取り組む、もしくは、授業の内容について理解を深めておく。	90
第12回	市場均衡3（一般均衡分析） 報告とディスカッション	
	【予習】 指定されたテーマを予習しておく。 【復習】 課題に取り組む、もしくは、授業の内容について理解を深めておく。	90
第13回	市場均衡4（エッジワースボックスと厚生経済学の基本定理） 報告とディスカッション	
	【予習】 指定されたテーマを予習しておく。 【復習】 課題に取り組む、もしくは、授業の内容について理解を深めておく。	90
第14回	市場の失敗（外部性と公共財） 報告とディスカッション	
	【予習】 指定されたテーマを予習しておく。 【復習】 課題に取り組む、もしくは、授業の内容について理解を深めておく。	90
第15回	総括：授業全体を振り返りレビューを行なう。	
	【予習】 授業全体を振り返って理解が十分か確認しておく。 【復習】 レビューの結果を手掛かりに、授業内容善太について理解を整理しておく。	120

授業の方法

テキストに沿って、演習形式（担当者による報告とディスカッション）で行なう。報告担当者は履修者の輪番で割り当てられ、教科書の解説、疑問点の提示を行い、ディスカッションにつなげる役割が期待されている。理解度を確認するため、課題の提出を求めていることがある。なお、本授業ではテキストの第1部 価格理論（第1章から第5章）を採りあげる。但し、授業の進捗によって内容を一部変更することがある。

成績評価の方法

報告（60%）、ディスカッションへの参加（30%）、課題の提出（10%）により多角的に評価する。定期試験は実施しない。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠しつつ、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ① ミクロ経済学の基礎が理解できている。
- ② 与えられた経済事象（課題）を、ミクロ経済理論を用いて分析、解釈できている。
- ③ 分析結果を、ミクロ経済学の用語を用いて適切に説明できている。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

学部レベルのミクロ経済学の知識を前提とする。

テキスト

神取道宏、『ミクロ経済学のか』、日本評論社、2014年、ISBN978-4-535-55756-7、3200円＋税

参考書

授業中に随時紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	マクロエコノミクス基礎研究		
教員名	井上 智夫		
科目ナンバー	2030721002	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

マクロ経済学は、ミクロ経済学と並んで経済学を理解する上で必要な科目である。消費や投資など、無数の個々の家計や企業が個別におこなった結果を国レベルで集散的に捉え、金融政策や財政政策等の経済政策がおよぼす影響を検討する。授業では、マクロ経済分析の対象となる事象、異なるマクロ経済理論が前提とする諸仮定の整理と理論が示唆する現象、理論の現実社会への応用を扱う。指定テキストをもとに、以下の授業計画にそって講義を行う。なお授業の進捗によっては、内容を一部変更する可能性がある。

到達目標

【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解)、DP3(研究能力及び発信力)
【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解)、DP7(論理的思考力)、DP8(総合マネジメント力)、DP9(他社との協働)、DP10(表現力及び発信力)
【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解)、DP12(研究能力及び発信力)
【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解)、DP17(論理的思考力)、DP18(総合マネジメント力)、DP19(他社との協働)、DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。
①マクロ経済理論を適切に理解し、わかりやすく説明できる。
②現実社会の経済現象を、マクロ経済理論に基づいて理解し、解釈することができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、事前準備等を説明する。 イントロダクション(1・2章) 国民所得(3章)	
	【予習】テキスト1・2・3章を熟読。 【復習】主要コンセプトを1頁に要約する。	60
第2回	国民所得(3章、続き)	
	【予習】3・4章を熟読。 【復習】キーワードを説明できるようにする。主要コンセプトを要約する。	90
第3回	貨幣とインフレーション(4章)	
	【予習】4・5章を熟読。 【復習】キーワードを説明できるようにする。主要コンセプトを要約する。	90

第4回	開放経済（5章）	
	【予習】 5・6章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。主要コンセプトを要約する。	90
第5回	失業（6章）	
	【予習】 6章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。主要コンセプトを要約する。	90
第6回	IS-LMモデルの応用（9章）	
	【予習】 7・8・9章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。主要コンセプトを要約する。	90
第7回	開放経済：マンデル=フレミングと為替制度（10章）	
	【予習】 10章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。主要コンセプトを要約する。	90
第8回	総供給・インフレ・失業のトレードオフ（11章）	
	【予習】 11章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。主要コンセプトを要約する。	90
第9回	経済成長（1・2章） * 課題レポート①（古典派理論とケインズ理論に関わる課題）の提出	
	【予習】 1・2章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。主要コンセプトを要約する。	120

第10回	安定化政策（3章）	
	【予習】 3章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。主要コンセプトを要約する。	90
第11回	政府債務と財政赤字（4章）	
	【予習】 4章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。主要コンセプトを要約する。	90
第12回	消費（5章）	
	【予習】 5章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。主要コンセプトを要約する。	90
第13回	投資（6章）	
	【予習】 6章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。主要コンセプトを要約する。	90
第14回	貨幣（7章）	
	【予習】 7章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。主要コンセプトを要約する。	90
第15回	総需要と総供給の動学モデル（8章） 課題レポート②（内容は後日指定）の提出	
	【予習】 8章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。主要コンセプトを要約する。	120

授業の方法

授業は講義を中心に進める。授業で扱った主要コンセプトを要約する課題（A4, 1頁程度）に毎週取り組むことで、内容の理解定着を目指す。要約した文書は、次週の講義時に提出する。上で示した授業計画はあくまでも目安であって、履修学生の理解度に応じて取り扱う項目を変更する可能性がある。

各課題の分量と狙いは以下の通りである。

- ・要約レポート（主要コンセプトの要約）：テーマごとに概念、キーワードの適切な理解を促し、学生側の個別項目の理解を把握する。A4, 1頁程度。
- ・課題レポート：包括的な概念の理解を促し、学生側の全体的な理解を把握する。A4, 数頁程度。

成績評価の方法

要約レポート（15回：60%）、課題レポート（2回：25%）、講義中の発言や質問等、講義への積極的な参加（15%）による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①マクロ経済理論を適切に理解し、わかりやすく説明できる。
- ②現実社会の経済現象を、マクロ経済理論に基づいて理解し、解釈することができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

学部レベルのマクロ経済学。

テキスト

N. グレゴリー・マンキュー『マンキュー マクロ経済学』（第3版）東洋経済新報社、入門編（2011年）と応用編（2012年）、ISBN-10: 4492314091と4492314202, 4000円と4200円

参考書

授業内で必要に応じて紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	企業経営基礎研究 I		
教員名	伊藤 公哉		
科目ナンバー	2030721008	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

企業の経営戦略の成否について広い視野から考察を行います。たとえば、現在のところ好調な企業であっても、たまたま時流に乗って好調なのか、それとも超過利潤を生むビジネスモデルが構築されているのか等、成功要因の本質を見極める必要があります。企業情報をコンペティタ（存在する場合）との比較や時系列による推移分析を行うことで、成功の手がかりが得られるかもしれません。もっとも、競争市場を前提とする従来の一般的なビジネスモデルによる理論・理由付けでは説明が困難な場合もあります。超過利潤を得ている企業のなかには、そもそも市場での競争から回避することに成功している場合もあるからです。市場競争を制限するフォーマルなルール（法令）の存在、すなわち、いわゆる免許事業や特許権等の独占的な権利を政府から付与されている場合が分かりやすい例といえます。さらに、経済主体の行動に影響を与え得るルールのなかには企業や業界団体などが自らつくり社会が受け入れているインフォーマルなルール（消費者の潜在意識のなかで慣習や常識としてとくに疑いをもつことなしに受け入れられている、消費者の視野を狭めているものを含む）も数多く存在し、フォーマルなルール以上に企業の利益に貢献している場合もあります。そこで、柔軟な思考により広い視野から、企業による超過利潤の源泉を追究することとします。

到達目標

【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解)，DP3(研究能力及び発信力)
【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解)，DP7(論理的思考力)，DP8(総合マネジメント力)，DP9(他社との協働)，DP10(表現力及び発信力)
【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解)，DP12(研究能力及び発信力)
【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解)，DP17(論理的思考力)，DP18(総合マネジメント力)，DP19(他社との協働)，DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。

- ① 企業や産業を適切な手法で分析することができる。
- ② 自分の考えを論理立てて正しく伝えることができる。
- ③ 柔軟な思考と広い視野から物事の本質を洞察することができる。
- ④ 課題を把握・分析し良い方向性を提案することができる。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス（講義の進め方など） 自己紹介（関心のあること、研究課題の紹介を含む）	
	【予習】 自己紹介用のコンテンツ（たとえばPower Pointなど）を用意しておく。なお、専門的な研究課題等は、ポイントを絞り、できるだけ分かりやすく説明すること。	60
第2回	企業情報の情報源とリサーチ手法 経営戦略と会計情報による裏付け	
	【復習】 授業の振り返りを行い、疑問点などは図書館等を利用して調べておく。	60
第3回	企業経営に関する基本書の輪読（報告者担当者によるプレゼンテーション）	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90

第4回	企業経営に関する基本書の輪読（報告者担当者によるプレゼンテーション）	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第5回	企業経営に関する基本書の輪読（報告者担当者によるプレゼンテーション）	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第6回	好調企業の成功要因の分析（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第7回	好調企業の成功要因の分析（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第8回	好調企業の成功要因の分析（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第9回	好調企業の成功要因の分析（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90

第10回	好調企業の成功要因の分析（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第11回	好調企業の成功要因の分析（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第12回	好調企業の成功要因の分析（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第13回	不調企業の課題分析と改善提案（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第14回	不調企業の課題分析と改善提案（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第15回	不調企業の課題分析と改善提案（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90

授業の方法

演習形式（受講者によるリサーチとプレゼンテーション及びディスカッション）が中心になります。
なお、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。

成績評価の方法

平常点（ディスカッションへの貢献など50%）及び課題の評価（プレゼンテーション50%）。試験は実施しません。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ① 企業や産業を適切な手法で分析することができる。
- ② 自分の考えを論理立てて正しく伝えることができる。
- ③ 柔軟な思考と広い視野から物事の本質を洞察することができる。
- ④ 課題を把握・分析し良い方向性を提案することができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくにありません（会計などの知識があれば尚可）。

テキスト

初回に、受講者の受講の目的及び理解度等を勘案し、受講者と相談のうえ決定することとします。

参考書

授業のなかで、適宜、紹介します。

たとえば、競争市場を前提とするビジネスモデルと会計情報の関係について、大津広一『会計力と戦略的思考力（新版）』日本経済新聞社、同『会計力と戦略的思考力 ビジネスモデル編』（日本経済新聞社）（いずれも、日経ビジネス人文庫）などが参考になると思います。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内ポータルサイトで周知します。

科目名	企業経営基礎研究II		
教員名	伊藤 克容		
科目ナンバー	2030721009	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

この講義では、企業経営を分析する際に必要となる定性的分析と定量的分析（主として財務諸表分析）の基礎を学びます。企業（会社）と無関係に存在していくのは、現代社会ではかなり困難です。少なくとも企業の提供する製品やサービスの顧客として関わりを持ちますし、相当数の人は、就職活動をして自分の勤める企業を選択しなければなりません。社会には無数の企業が存在していますが、ビジネスパーソンとして成功するためには、様々な会社（企業）について、興味・知識を持つこと、疑問点がでた場合に調査・分析する方法を知っていることは重要でしょう。実際の企業の経営行動を取り上げ分析すると同時に、理論的なフレームワークについても検討したいと考えています。様々なトピックスを用いて、理論を学ぶだけではなく、それをいかに活用できるかのトレーニングを実施します。知識の活用は、情報の収集、解釈・分析、報告発表などのプロセスに細分されます。最終工程である、報告発表のスキルについても向上を目指します。

到達目標

【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2（専門分野の知識・理解）、DP3（研究能力及び発信力）
【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6（専門分野の知識・理解）、DP7（論理的思考力）、DP8（総合マネジメント力）、DP9（他社との協働）、DP10（表現力及び発信力）
【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12（専門分野の知識・理解）、DP12（研究能力及び発信力）
【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16（専門分野の知識・理解）、DP17（論理的思考力）、DP18（総合マネジメント力）、DP19（他社との協働）、DP20（表現力及び発信力）を実現するため、以下を到達目標とします。

- ① 企業や産業を適切な手法で分析することができる。
- ② 自分の考えを論理立てて正しく伝えることができる。
- ③ 柔軟な思考と広い視野から物事の本質を洞察することができる。
- ④ 課題を把握・分析し良い方向性を提案することができる。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス（講義の進め方など） 自己紹介（関心のあること、研究課題の紹介を含む）	
	【予習】 自己紹介用のコンテンツ（たとえばPower Pointなど）を用意しておく。なお、専門的な研究課題等は、ポイントを絞り、できるだけ分かりやすく説明すること。	60
第2回	企業情報の情報源とリサーチ手法 経営戦略と会計情報による裏付け	
	【復習】 授業の振り返りを行い、疑問点などは図書館等を利用して調べておく。	60
第3回	財務諸表分析の基礎①（報告者担当者によるプレゼンテーション）	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90

第4回	財務諸表分析の基礎②（報告者担当者によるプレゼンテーション）	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第5回	代表的な理論フレームワーク①（報告者担当者によるプレゼンテーション）	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第6回	代表的な理論フレームワーク②（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第7回	代表的な理論フレームワーク③（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第8回	好調企業の成功要因の分析①（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第9回	好調企業の成功要因の分析②（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90

第10回	好調企業の成功要因の分析③（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第11回	デジタルトランスフォーメーションの影響①（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第12回	デジタルトランスフォーメーションの影響②（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第13回	不調企業の課題分析と改善提案①（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第14回	不調企業の課題分析と改善提案②（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第15回	M&Aの成功要因分析（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90

授業の方法

演習形式（受講者によるリサーチとプレゼンテーション及びディスカッション）が中心になります。
なお、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。

成績評価の方法

平常点（ディスカッションへの貢献など50%）及び課題の評価（プレゼンテーション50%）。
試験は実施しません。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ① 企業や産業を適切な手法で分析することができる。
- ② 自分の考えを論理立てて正しく伝えることができる。
- ③ 柔軟な思考と広い視野から物事の本質を洞察することができる。
- ④ 課題を把握・分析し良い方向性を提案することができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくにありません（会計などの知識があればのぞましい）。

テキスト

初回に、受講者の受講の目的及び理解度等を勘案し、受講者と相談のうえ決定することとします。

参考書

特にありません。必要に応じて資料を配付します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内ポータルサイトで周知します。

科目名	統計学基礎研究		
教員名	井上 潔司		
科目ナンバー	2030721006	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要			
<p>この講義では、統計学の初学者を対象に、統計的な考え方を初歩から解説することにより、統計学の体系的知識を習得することを目標とする。今後の研究活動に必要な基本事項に重点を置き、特に記述統計学と推測統計学の基本について学習する。また、学生が自発的に課題を設定し、その解決に向けて適切なデータを選択し、正しい分析結果を導出するという一連のプロセスを体系的に学ぶ。</p>			

到達目標			
<p>【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解), DP3(研究能力及び発信力) 【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解), DP7(論理的思考力), DP8(総合マネジメント力), DP9(他社との協働), DP10(表現力及び発信力) 【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解), DP12(研究能力及び発信力) 【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解), DP17(論理的思考力), DP18(総合マネジメント力), DP19(他社との協働), DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。 統計学の重要事項を学び、基本的な考え方の修得を目標とする。 さまざまな統計量の定義を学び、その意味を理解する。 統計的推定・検定の基本的な考え方を理解し、実際に適用できる能力を養う。</p>			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・統計学を学修するうえでの基本的な考え方を説明する。		
		【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義の内容を把握する。	60分
第2回	基本統計量 1 ・データの特徴を表す代表値について学ぶ。 ・平均、分散、標準偏差の導出方法とその意味について学修する。		
		【予習】 平均、分散、標準偏差について理解しておく。 【復習】 計算機を用いた導出の手順を確認する。	90分
第3回	基本統計量 2 ・様々なデータの表し方を学修する。 ・様々なデータの代表値の導出方法とその意味について学修する。		
		【予習】 データの様々な代表値について理解しておく。 【復習】 計算機を用いた導出方法を確認する。	90分

第4回	<p>相関分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2次元データの関係をとらえる方法を学ぶ。 ・ 共分散と相関係数の導出方法を修得する。 	
	<p>【予習】 単回帰モデルの意味について理解しておく。 【復習】 単回帰モデル導出方法を理解し、その手順を計算機上で確認する。</p>	90分
第5回	<p>単回帰分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2次元データの因果関係をとらえる方法を学ぶ。 ・ 最小2乗法について学び、回帰直線の導出方法を修得する。 	
	<p>【予習】 重回帰モデルの意味について理解しておく。 【復習】 単回帰モデル導出方法を理解し、その手順を計算機上で確認する。</p>	90分
第6回	<p>重回帰分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多次元データの因果関係をとらえる方法を学ぶ。 ・ 多次元での最小2乗法について学び、回帰平面の導出方法を修得する。 	
	<p>【予習】 回帰モデルのあてはまりのよさを理解する。 【復習】 回帰結果を理解し、計算機上で決定係数の導出方法を確認する。</p>	90分
第7回	<p>決定係数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 回帰分析の結果から、あてはまりのよさの考え方を学ぶ。 ・ 決定係数の導出方法とその意味について学ぶ。 	
	<p>【予習】 重回帰モデルの意味について理解しておく。 【復習】 単回帰モデル導出方法を理解し、その手順を計算機上で確認する。</p>	90分
第8回	<p>数量化Ⅰ類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数量化の概念を学ぶ。 ・ ダミー変数のある回帰モデルの構築の仕方を学修する。 	
	<p>【予習】 数量化Ⅰ類について理解しておく。 【復習】 ダミー変数の作り方を確認する。</p>	90分
第9回	<p>モデル選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報量規準の概念を学ぶ。 ・ 最適モデルの選び方を修得する。 	
	<p>【予習】 赤池情報量規準を理解する。 【復習】 計算機上でのモデル選択プロセスを確認する。</p>	90分

第10回	<p>曲線回帰モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な回帰モデルの構築方法を学ぶ。 ・情報量規準を用いたモデル選択方法を学修する。 	
	<p>【予習】 曲線回帰モデルについて理解する。 【復習】 曲線回帰モデルにおけるモデル選択プロセスを確認する。</p>	90分
第11回	<p>統計的推定理論 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推定の考え方を修得する。 ・点推定と区間推定を学修する。 	
	<p>【予習】 記述統計と推測統計の違いを理解する。 【復習】 最尤推定量の導出方法と信頼区間の構成方法を確認する。</p>	90分
第12回	<p>統計的推定理論 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2標本問題における推定方法を学ぶ。 ・様々なタイプの推測問題の考え方を修得する。 	
	<p>【予習】 2標本推定問題について理解する。 【復習】 区間推定の考え方を理解し、信頼区間の導出方法を確認する。</p>	90分
第13回	<p>統計的検定理論 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説検定の考え方を修得する。 ・検定結果に対する判断を学修する。 	
	<p>【予習】 推定と検定の違いについて理解しておく。 【復習】 検定の手順および、2種類の誤りについて理解する。</p>	90分
第14回	<p>統計的検定理論 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2標本問題における検定方法を学ぶ。 ・様々なタイプの検定問題の考え方を修得する。 	
	<p>【予習】 2標本検定問題について理解する。 【復習】 検定統計量の構成方法および、検定の手順について確認する。</p>	90分
第15回	<p>まとめ（レポートのまとめ方）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のまとめ ・レポート作成指導 	
	<p>【復習】 この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。</p>	60分

授業の方法

講義 + 演習 形式での授業を行う。統計学の基本事項を解説した後、パソコンを用いての演習を行う。各自の興味のあるテーマを選び、自分で図書館やインターネットで調べたことを定期的に発表し、それらについて学生同士で討論し、最後に結果をレポートにまとめて提出する。また、授業と並行して輪読を行う予定でいる。

成績評価の方法

平常点(全体の6割)とレポート(全体の4割)によって成績をつける。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準(学則第11条の2)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

- ・ 様々なデータのまとめ方を理解できているか。
- ・ 分析結果の解釈が正しくできるか。

必要な予備知識/先修科目/関連科目

統計学基礎、基礎解析の知識があることが望ましい。

テキスト

授業中に随時紹介する。

参考書

授業中に随時紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	経済経営史基礎研究		
教員名	松本 貴典		
科目ナンバー	2030721007	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

世界はどのような軌跡を描いて経済発展を遂げてきたのだろうか。そして、これから先どうなるのだろうか。「歴史に学び、歴史の理解をもって未来を解く鍵とする」ことによって、世界経済の過去と現在と未来を考えていこうというのが、この授業のテーマである。

授業では、現在「産業革命と経済発展」についての最も優秀な研究をしているロバート・C・アレンの著した『世界史のなかの産業革命』を素材にして、その内容を学んでいく。

到達目標

【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解), DP3(研究能力及び発信力)
 【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解), DP7(論理的思考力), DP8(総合マネジメント力), DP9(他社との協働), DP10(表現力及び発信力)
 【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解), DP12(研究能力及び発信力)
 【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解), DP17(論理的思考力), DP18(総合マネジメント力), DP19(他社との協働), DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。

約1万年前に長い氷河期が終わり、人類は定着農耕を始めた。そこには先進国も低開発国もなかった。われわれは1万年前は同じスタート・ラインに立っていたのに、なぜ今日、少数の豊かな国と多数の貧しい国とに分かれてしまったのか。世界各国間の貧富を決める要因は何なのか。なぜ産業革命はイギリスで起こったのか。そして、産業革命が豊かさへの鍵なら、なぜすべての国が産業革命を達成できなかったのか。

この演習では、この分野の最前線の研究を学ぶ。テキストの構成は以下のとおり。

- 第1章 前工業化経済と産業革命
- 第2章 前工業化イギリスの高賃金経済
- 第3章 農業革命
- 第4章 低価格エネルギー経済
- 第5章 なぜイギリスが成功したのか
- 第6章 なぜ産業革命はイギリスで起きたのか
- 第7章 蒸気機関
- 第8章 綿業
- 第9章 コークス溶鉱法
- 第10章 発明家、啓蒙主義そして人的資本
- 第11章 産業革命から近代経済成長へ

この演習を通じて、受講者は、今日のこの大きな格差の原因を理解できるようになるだろう。また、どこを正せばその国は経済成長を始めるのかも提言することができるだろう。

「経済発展を分ける要因は何なのか」の答えは、「経済理論の中にも、経済政策の中にもない。答えは経済史の中に隠されている」。受講者には、それを見つけてもらいたい。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	担当者によるイントロダクション	
	復習としては、テキストの重要部分の読み直し。	復習に60分。
第2回	第1章の内容報告	
	予習としては、テキストの該当箇所を事前に読んで授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直し。	予習に60分、復習に60分。

第3回	第2章の内容報告	
	<p>予習として、テキストの該当箇所を事前に読んで授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直し。</p>	<p>予習に60分、復習に60分。</p>
第4回	第3章の内容報告	
	<p>予習として、テキストの該当箇所を事前に読んで授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直し。</p>	<p>予習に60分、復習に60分。</p>
第5回	第1章～第3章の小括	
	<p>予習として、テキストの該当箇所を事前に再読して授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直し。</p>	<p>予習に60分、復習に60分。</p>
第6回	第4章の内容報告	
	<p>予習として、テキストの該当箇所を事前に読んで授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直し。</p>	<p>予習に60分、復習に60分。</p>
第7回	第5章の内容報告	
	<p>予習として、テキストの該当箇所を事前に読んで授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直し。</p>	<p>予習に60分、復習に60分。</p>
第8回	第6章の内容報告	
	<p>予習として、ここまでのテキストを見直して疑問点、補足を望む点、論点とすべき点などをピックアップして授業に臨むこと。 復習としては、この授業で明らかにされた重要部分の読み直しを行うこと。</p>	<p>予習に60分、復習に60分。</p>

第9回	第7章の内容報告	
	<p>予習として、テキストの該当箇所を事前に読んで授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直し。</p>	<p>予習に60分、復習に60分。</p>
第10回	第8章の内容報告	
	<p>予習として、テキストの該当箇所を事前に読んで授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直し。</p>	<p>予習に60分、復習に60分。</p>
第11回	第4章～第8章の小括	
	<p>予習として、テキストの該当箇所を再読して授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直し。</p>	<p>予習に60分、復習に60分。</p>
第12回	第9章の内容報告	
	<p>予習として、テキストの該当箇所を事前に読んで授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直し。</p>	<p>予習に60分、復習に60分。</p>
第13回	第10章の内容報告	
	<p>予習として、テキストの該当箇所を事前に読んで授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直し。</p>	<p>予習に60分、復習に60分。</p>
第14回	第11章の内容報告	
	<p>予習として、テキストの該当箇所を事前に読んで授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直し。</p>	<p>予習に60分、復習に60分。</p>

第15回	第9章～第11章の小括と全体の総括	
	<p>予習として、テキスト全体を再読して授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直し。</p>	<p>予習に60分、復習に60分。</p>
授業の方法		
<p>テキストや演習担当者が配布するプリントの各章を受講生にローテーションで報告してもらい、演習参加者全員で報告内容について議論をする形式で進める。</p>		
成績評価の方法		
<p>学期末に提出されるレポート（40%）、授業への積極性（20%）、授業での報告の善し悪し（20%）、授業への貢献度（20%）にもとづき評価する。</p>		
成績評価の基準		
<p>成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。</p>		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
<p>予備知識と先修科目はとくにない。関連科目は経済史関連がそれにあたる。</p>		
テキスト		
<p>ロバート・C・アレン『世界史のなかの産業革命—資源・人的資本・グローバル経済—』名古屋大学出版会、2017年</p>		
参考書		
<p>ロバート・C・アレン『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』エヌティティ出版、2012年 アンガス・ディートン『大脱出——健康、お金、格差の起原——』みすず書房、2014年 ケネス・ボメランツ&スティーヴン・トピック『グローバル経済の誕生—貿易が作り変えたこの世界—』筑摩書房、2013年 ダロン・アセモグル&ジェイムズ・A・ロビンソン『国家はなぜ衰退するのか(上)(下)—権力・繁栄・貧困の起源—』早川書房、2013年 ブランコ・ミラノヴィッチ『不平等について—経済学と統計が語る26の話—』みすず書房、2012年 アンソニー・B・アトキンソン『21世紀の不平等』東洋経済新報社、2015年 ほか</p>		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
<p>ポータルサイトで周知する。</p>		

科目名	経営戦略研究		
教員名	浜松 翔平		
科目ナンバー	2030731001	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

この講義では、経営戦略論に関する発展的な議論を学びながら、日本企業が直面する戦略的課題について考えていきます。具体的には、経営戦略論に関係する論文集の中から毎回1本程度の論文をピックアップし、輪読・議論をしていきます。講義を通じて、皆さんには、学部教科書レベルから一歩進んだ知識を身につけてもらうと共に、戦略の問題を考える上での思考力を鍛えてもらいます。

到達目標

- 【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解)、DP3(研究能力及び発信力)
【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解)、DP7(論理的思考力)、DP8(総合マネジメント力)、DP9(他者との協働)、DP10(表現力及び発信力)
【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解)、DP12(研究能力及び発信力)
【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解)、DP17(論理的思考力)、DP18(総合マネジメント力)、DP19(他者との協働)、DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。
- (1) 経営戦略に関する理論を理解できる
 - (2) 経営戦略に関する論理を本質を抑えて要約できる
 - (3) 経営戦略に関する論理を他人にわかりやすく説明できる
 - (4) 疑問や課題を発見する事ができる

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	ガイダンス ・使用テキスト、授業方法について説明する。 ・次回以降の発表担当を決める	
	【予習】自分が興味を持つ章を事前に読んでおいてください。どの章を担当するか初回講義で決定します。 【復習】自分の発表する章を読んでおく。	60
第2回	論文集の輪読 ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論	
	【予習】該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。	60
第3回	論文集の輪読 ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論	
	【予習】該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。	60

第4回	<p>論文集の輪読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論 	
	<p>【予習】 該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】 テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。</p>	60
第5回	<p>論文集の輪読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論 	
	<p>【予習】 該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】 テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。</p>	60
第6回	<p>論文集の輪読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論 	
	<p>【予習】 該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】 テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。</p>	60
第7回	<p>論文集の輪読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論 	
	<p>【予習】 該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】 テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。</p>	60
第8回	<p>論文集の輪読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論 	
	<p>【予習】 該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】 テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。</p>	60
第9回	<p>論文集の輪読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論 	
	<p>【予習】 該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】 テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。</p>	60

第10回	<p>論文集の輪読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論 	
	<p>【予習】 該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】 テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。</p>	60
第11回	<p>論文集の輪読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論 	
	<p>【予習】 該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】 テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。</p>	60
第12回	<p>論文集の輪読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論 	
	<p>【予習】 該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】 テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。</p>	60
第13回	<p>論文集の輪読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論 	
	<p>【予習】 該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】 テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。</p>	60
第14回	<p>論文集の輪読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論 	
	<p>【予習】 該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】 テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。</p>	60
第15回	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの議論をまとめて、十分な理解を得るようにする。 	
	<p>【予習】 これまでの論文で興味を惹かれた分野を整理しておく。 【復習】 今後、どのような分野で研究をしたいかを考える。</p>	60

授業の方法

1回の授業で1本の論文を取り上げます。取り上げる論文は、受講者の興味関心に応じて初回の講義で決めます。毎回の講義では、事前に決めた各論文の担当者が、論文の内容や評価に関して作成したレジュメを基に報告をします。

発表者担当者の役割としては、発表の前の週に、発表担当者は該当する章を参加人数分印刷して持参します。発表当日は、人数分のレジュメを印刷して持参します。レジュメには、論文の要約、ディスカッションしたいポイントを記載しておくこと。

その他の学生は、受け取った論文を読みA4 1枚程度にまとめた上で、授業に出席・ディスカッションに参加します。ディスカッションは、担当者のレジュメと提出されたコメントを元に進めていきます。

授業では論文を読むだけでなく、読んだ論文からインスピレーションを得て今後どのような研究を自分ができるかを議論します。今後すすめたい研究内容についても議論できるように、日頃から検討しておくようにしてください。

成績評価の方法

レジュメやコメント等の提出物 (80%)、授業への参加態度 (議論への参加等) (20%)。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準 (学則第11条の2) に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

到達目標の達成度に基づいて評価する。

- (1) 経営戦略に関する理論を理解できる
- (2) 経営戦略に関する論理を本質を抑えて要約できる
- (3) 経営戦略に関する論理を他人にわかりやすく説明できる
- (4) 疑問や課題を発見する事ができる

必要な予備知識／先修科目／関連科目

学部レベルの経営学の基礎知識があることを前提とします。

テキスト

『リーディングス 日本の企業システム 第Ⅱ期』の以下から、受講者の希望する章を選択して扱います。

伊丹・藤本・岡崎・伊藤・沼上 編著 (2006) 『リーディングス 日本の企業システム第Ⅱ期 第3巻 戦略とイノベーション』有斐閣。

参考書

適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	消費者行動研究		
教員名	井上 淳子		
科目ナンバー	2030731003	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要			
<p>市場が成熟し、各社の技術水準が高次化することにより、多くのカテゴリーにおいて、製品の同質化が進んでいます。こうした市場環境においては、消費者行動や消費者心理の正確な理解が求められます。改めて、消費者行動研究の重要性が高まっているのです。そこで本講義では、消費者行動研究の中で扱われる重要なトピックについて学びます。理論と事例の結びつきを意識してディスカッションを進めるだけでなく、消費者行動研究における新たな潮流についても適宜紹介していく予定です。</p>			

到達目標			
<p>【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解)、DP3(研究能力及び発信力) 【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解)、DP7(論理的思考力)、DP8(総合マネジメント力)、DP9(他社との協働)、DP10(表現力及び発信力) 【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解)、DP12(研究能力及び発信力) 【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解)、DP17(論理的思考力)、DP18(総合マネジメント力)、DP19(他社との協働)、DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者行動の基本的な理論や概念を理解する。 ・近年の消費者行動研究の潮流を把握し、修士論文・特定課題研究に活用する。 			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)	
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・講義の内容や進め方について説明する ・受講生の関心や消費者行動の習熟度を確認したうえで、輪読対象の文献や発表テーマを確定する 		
	【予習】 既に習った消費者行動やマーケティングの知識を復習しておく。	60	
第2回	テーマ発表① <ul style="list-style-type: none"> ・担当者によるプレゼンテーションと全体でのディスカッション ・消費者行動論の全体像について把握する 		
	【予習】 <ul style="list-style-type: none"> ・テキストや配布資料を読み、担当者は発表資料を作成する。担当者以外もテキストや配布資料を熟読する。 	120	
第3回	テーマ発表② <ul style="list-style-type: none"> ・担当者によるプレゼンテーションと全体でのディスカッション ・「欲求と動機」について理解する 		
	【予習】 <ul style="list-style-type: none"> ・テキストや配布資料を読み、担当者は発表資料を作成する。担当者以外もテキストや配布資料を熟読する。 	120	

第4回	<p>テーマ発表③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者によるプレゼンテーションと全体でのディスカッション ・「購買と交換」について理解する 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストや配布資料を読み、担当者は発表資料を作成する。担当者以外もテキストや配布資料を熟読する。 	120
第5回	<p>テーマ発表④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者によるプレゼンテーションと全体でのディスカッション ・「意思決定と選択」について理解する 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストや配布資料を読み、担当者は発表資料を作成する。担当者以外もテキストや配布資料を熟読する。 	120
第6回	<p>テーマ発表⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者によるプレゼンテーションと全体でのディスカッション ・「態度と説得」について理解する 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストや配布資料を読み、担当者は発表資料を作成する。担当者以外もテキストや配布資料を熟読する。 	120
第7回	<p>テーマ発表⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者によるプレゼンテーションと全体でのディスカッション ・「知覚と記憶」について理解する 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストや配布資料を読み、担当者は発表資料を作成する。担当者以外もテキストや配布資料を熟読する。 	120
第8回	<p>テーマ発表⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者によるプレゼンテーションと全体でのディスカッション ・「知識と認知」について理解する 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストや配布資料を読み、担当者は発表資料を作成する。担当者以外もテキストや配布資料を熟読する。 	120
第9回	<p>テーマ発表⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者によるプレゼンテーションと全体でのディスカッション ・「感情と気分」について理解する 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストや配布資料を読み、担当者は発表資料を作成する。担当者以外もテキストや配布資料を熟読する。 	120

第10回	<p>テーマ発表⑨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者によるプレゼンテーションと全体でのディスカッション ・「コミュニケーションとブランド」について理解する 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストや配布資料を読み、担当者は発表資料を作成する。担当者以外もテキストや配布資料を熟読する。 	120
第11回	<p>テーマ発表⑨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者によるプレゼンテーションと全体でのディスカッション ・「社会と人間」について理解する 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストや配布資料を読み、担当者は発表資料を作成する。担当者以外もテキストや配布資料を熟読する。 	120
第12回	<p>テーマ発表⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者によるプレゼンテーションと全体でのディスカッション ・担当者の関心に基づき、近年の消費者行動研究の動向や注目されている概念について理解する 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストや配布資料を読み、担当者は発表資料を作成する。担当者以外もテキストや配布資料を熟読する。 	120
第13回	<p>テーマ発表⑪</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者によるプレゼンテーションと全体でのディスカッション ・担当者の関心に基づき、近年の消費者行動研究の動向や注目されている概念について理解する 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストや配布資料を読み、担当者は発表資料を作成する。担当者以外もテキストや配布資料を熟読する。 	120
第14回	<p>テーマ発表⑫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者によるプレゼンテーションと全体でのディスカッション ・担当者の関心に基づき、近年の消費者行動研究の動向や注目されている概念について理解する 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストや配布資料を読み、担当者は発表資料を作成する。担当者以外もテキストや配布資料を熟読する。 	120
第15回	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義を振り返り、総括を行う 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義で扱った概念の中で、理解が不十分なものがないか確認しておく。 	60

授業の方法

- ・ 授業は予め決められた担当者が発表し、それに基づき、全員で議論を進めていく。
- ・ 発表担当者は、レジュメを用意すること。またその他の受講者はディスカッションに参加できるよう、テキストや資料を熟読しておくこと。

成績評価の方法

成績評価の方法

報告内容（35%）、ディスカッションでの発言（35%）、最終レポートの評価（30%）
成績評価の基準

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

- ① 消費者行動の理論や概念について、自分なりの理解を深めることができているか。
- ② 報告内容に独自の視点が盛り込まれているか。
- ③ ディスカッションに積極的に参加し、有益な論点を提供できたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「マーケティング研究」など経営関連科目全般。

テキスト

初回講義で確定しますが、
田中洋『消費者行動論体系』、中央経済社、2008年。
を想定しています。

なお、受講生の関心や研究領域に応じて、
マイケル・R・ソロモン（松井剛監訳、大竹光寿、北村真琴、鈴木智子、西川英彦、朴宰佑、水越康介訳）『ソロモン消費者行動論』、丸善出版、2015年。
とする可能性もあります。

参考書

マイケル・R・ソロモン（松井剛監訳、大竹光寿、北村真琴、鈴木智子、西川英彦、朴宰佑、水越康介訳）『ソロモン消費者行動論』丸善出版、2015年。
その他、適宜、紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	マーケティング研究		
教員名	石井 裕明		
科目ナンバー	2030731004	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

この科目は、マーケティングの伝統的フレームワーク（STPおよび4P）について学び、それぞれのトピックについて最新の事例や現象と合わせて考察することをテーマとします。
企業ケースや先端的研究のディスカッションを通じて広くマーケティングを理解するとともに、実際のマーケティング戦略について検討します。

到達目標

- 【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解)， DP3 (研究能力及び発信力)
- 【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6 (専門分野の知識・理解)， DP7 (論理的思考力)， DP8 (総合マネジメント力)， DP9 (他社との協働)， DP10 (表現力及び発信力)
- 【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解)， DP12 (研究能力及び発信力)
- 【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16 (専門分野の知識・理解)， DP17 (論理的思考力)， DP18 (総合マネジメント力)， DP19 (他社との協働)， DP20 (表現力及び発信力) を実現するため、以下を到達目標とします。
 - ・マーケティングの基本的な用語や概念を理解し、修士論文および特定課題研究に活用できる。
 - ・新しいマーケティングトピックを理解し、さまざまなマーケティング現象を多様な角度から考察できる。
 - ・分析や考察の内容を他者に論理的に説明し、ディスカッションを展開できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション ・講義の内容、進め方等について説明する。	
	【予習】 ・テキストの目次を含め「はじめに」までを読み本の主旨を理解する。	60
第2回	輪読とディスカッション part 1 ・担当者による要旨の報告。 ・マーケティングの目標と達成指標についての理解とディスカッション。	
	【予習】 ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。	120
第3回	輪読とディスカッション part 2 ・担当者による要約の報告。 ・セグメンテーションおよびターゲティングについての理解とディスカッション。	
	【予習】 ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。	120
第4回	輪読とディスカッション part 3 ・担当者による要約の報告。 ・ポジショニングと価値提案についての理解とディスカッション。	

	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。 	120
第5回	<p>輪読とディスカッション part 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者による要約の報告。 ・ユニークなポジショニングおよび価値提案に関する事例研究とディスカッション。 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。 	120
第6回	<p>輪読とディスカッション part 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者による要約の報告。 ・新製品開発の手法に関する理解とディスカッション。 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。 	120
第7回	<p>輪読とディスカッション part 6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者による要約の報告。 ・価値共創に関する事例研究とディスカッション。 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。 	120
第8回	<p>輪読とディスカッション part 7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者による要約の報告。 ・新製品の普及に関する考え方ならびにモデルの理解とディスカッション。 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。 	120
第9回	<p>輪読とディスカッション part 8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者による要約の報告。 ・価格設定のフレームワークに関する理解とディスカッション。 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。 	120
第10回	<p>輪読とディスカッション part 9</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者による要約の報告。 ・広告・プロモーションに関する理解とディスカッション。 	

	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。 	120
第11回	<p>輪読とディスカッション part 10</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者による要約の報告。 ・マーケティングにおけるソーシャルメディアの活用事例についてディスカッション。 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。 	120
第12回	<p>輪読とディスカッション part 11</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者による要約の報告。 ・クチコミに関する最新研究についてディスカッション。 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。 	120
第13回	<p>輪読とディスカッション part 12</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者による要約の報告。 ・チャンネル選択と管理に関する理解とディスカッション。 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。 	120
第14回	<p>輪読とディスカッション part 13</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者による要約の報告。 ・マーケティングリサーチ手法に関する理解とディスカッション。 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。 	120
第15回	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義全体を振り返り、まとめを行う。 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでのレジュメ、ディスカッションメモに目を通しておく。 	60
授業の方法		

・授業は予め決められた担当者が発表し、それに基づき、全員で議論を進めていく。
・発表担当者は、レジュメを用意すること。またその他の受講者はディスカッションに参加できるよう、テキストや資料を熟読しておくこと。

成績評価の方法

報告内容（40%）、ディスカッションでの発言（30%）、最終レポートの評価（30%）で評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 11-2.
次の点に着目し、その到達度により評価する。
・テキスト、資料の内容を十分理解し、自身の視点や考察を踏まえたレジュメ作成と報告ができるか。
・ディスカッションに積極的に参加し、テーマ理解の促進や有用なアイデア、情報の共有に貢献できるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「経営戦略研究」など経営関連科目全般。

テキスト

受講生の関心等に応じて初回講義で確定するが、
『マーケティング戦略（第5版）』、和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦（著）、有斐閣、2016年。
を想定している。

その他、
『感覚マーケティング』、アラドナ・クリシュナ著、有斐閣、2016年
『1からのデジタル・マーケティング』、西川英彦・澁谷覚編著、碩学舎2019年
『ブランド戦略論』、田中洋著、有斐閣、2017年
などを指定する場合もある。

参考書

適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	産業組織と企業戦略		
教員名	平尾 由紀子		
科目ナンバー	2030731005	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要			
<p>産業組織論の理論と実証研究について学び、企業戦略への応用について考える。また、独占禁止法と産業の規制を中心に、企業の経済活動に関する政策について勉強する。</p> <p>なお、授業の進捗に応じて、以下の授業の計画・内容、及び宿題の回数と提出日を一部変更する場合がある。</p>			

到達目標			
<p>【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解)，DP3(研究能力及び発信力)</p> <p>【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解)，DP7(論理的思考力)，DP8(総合マネジメント力)，DP9(他社との協働)，DP10(表現力及び発信力)</p> <p>【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解)，DP12(研究能力及び発信力)</p> <p>【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解)，DP17(論理的思考力)，DP18(総合マネジメント力)，DP19(他社との協働)，DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。</p> <p>①市場競争のメカニズム、企業戦略、産業構造に関する理解を養う。</p> <p>②独占に対する経済政策(独占禁止法)に関する知識を深める。</p>			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)	
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション：産業組織の基本概念		
	【復習】 授業の内容を復習する。	60	
第2回	完全競争市場		
	【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題1に取り組む。	120	
第3回	宿題1の解説 経済厚生と余剰分析		
	【復習】 授業の内容を復習する。宿題1の理解を確認する。 【予習】 学期末の報告発表について、テーマを考える。	90	

第4回	独占その1：参入障壁と独占の行動	
	【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題2に取り組む。	120
第5回	宿題2の解説 独占その2：独占価格と価格差別	
	【復習】 授業の内容を復習する。宿題2の理解を確認する。 【予習】 学期末の報告発表のテーマについて、引き続き考える。	90
第6回	独占禁止法	
	【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題3に取り組む。	120
第7回	宿題3の解説 企業間の川上・川下関係：垂直的取引制限	
	【復習】 授業の内容を復習する。宿題3の理解を確認する。 【予習】 学期末の報告発表のテーマについて調べる。	120
第8回	寡占市場と数量競争	
	【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題4に取り組む。	120
第9回	宿題4の解説 寡占市場と価格競争	
	【復習】 授業の内容を復習する。宿題4の理解を確認する。 【予習】 学期末報告発表のテーマについて引き続き調べる。	120

第10回	カルテル	
	【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題5に取り組む。	120
第11回	宿題5の解説 参入と参入阻止	
	【復習】 授業の内容を復習する。宿題5の理解を確認する。 【予習】 学期末の報告発表用のレジュメを作成する。	120
第12回	製品差別化と広告	
	【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題6に取り組む。	120
第13回	宿題6の解説 技術革新とR&D競争	
	【復習】 授業の内容を復習する。宿題6の理解を確認する。 【予習】 学期末の報告発表用のレジュメを仕上げる。	120
第14回	学生の報告発表（任意の産業について調べて報告）	
	【予習】 報告発表の準備を行う。	120
第15回	全体のまとめ	
	【復習】 今学期の授業全体の内容を復習する。	120

<p>授業の方法</p> <p>基本的に、配布プリントを元に教員が講義を行うが、学生も報告発表と宿題提出を通じて授業に積極的に参加する形式である。学期の最後には、任意の産業の実態について学生に報告発表してもらう。学生各自で産業を選び、調査して、報告発表の準備を進める。</p> <p>学生は、定期的に課される宿題に取り組むことにより、授業の復習をする。分からないことを次回の授業に持ち越さないようにする。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。</p> <p>なお、定期的に課される宿題は、その時々授業内容の理解を確認することを目的とする。</p>
<p>成績評価の方法</p> <p>授業への参加状況（25%）、毎週の宿題の提出（25%）、学期末の報告発表（25%）、および学期末試験（25%）をあわせて総合的に評価する。</p>
<p>成績評価の基準</p> <p>成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <p>①市場競争のメカニズム、企業戦略、産業構造に関する理解を深めた。</p> <p>②独占禁止法に関する知識を深めた。</p>
<p>必要な予備知識／先修科目／関連科目</p> <p>先修科目や必要な予備知識は特になし。関連科目は「ミクロエコノミクス基礎研究」と戦略マーケティング・ユニットの科目。</p>
<p>テキスト</p> <p>特に指定せず、必要に応じて参考書を提示する。</p>
<p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小田切宏之（2001）「新しい産業組織論」、有斐閣、2,800円＋税。 ・小田切宏之（2017）「競争戦略論 第2版」、日本評論社、2,500円＋税。 ・長岡貞男（2013）「産業組織の経済学 第2版」、日本評論社、3,000円＋税。 ・日本経済新聞社編（各年）「日経業界地図 2019年版」、日本経済新聞社、1,100円＋税。 ・三菱総合研究所編（2006）「日本産業読本 第8版」、東洋経済新報社、2,400円＋税。 ・柳川隆・川濱昇編（2006）「競争の戦略と政策」、有斐閣ブックス、2,300円＋税。 ・Tirole, J. (1988), The Theory of Industrial Organization, The MIT Press. ・Carlton, D., and J. Perloff (2005), Modern Industrial Organization, 4th Edition, Harper Collins. <p>その他の参考書は授業中に適宜紹介する。</p>
<p>質問・相談方法等(オフィス・アワー)</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>

科目名	社会心理学研究		
教員名	義村 敦子		
科目ナンバー	2030732001	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

この授業のテーマは「社会心理学の理論から実社会を考える」です。社会心理学の主要理論についてテキストをもとにして学んだ上で、実社会でのさまざまな現象について議論します。

到達目標

D【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解)、DP3(研究能力及び発信力)
 【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解)、DP7(論理的思考力)、DP8(総合マネジメント力)、DP9(他社との協働)、DP10(表現力及び発信力)
 【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解)、DP12(研究能力及び発信力)
 【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解)、DP17(論理的思考力)、DP18(総合マネジメント力)、DP19(他社との協働)、DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。
 ①社会心理学の特徴を心理学全体における位置づけから理解する。
 ②社会心理学に関する主要な知見を学ぶ。
 ③いくつかの社会心理学理論等を応用して、実社会の現象について議論できるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション：社会心理学とは何か	
	【予習】テキスト第1章を熟読。	90
第2回	社会心理学と関連領域とあゆみ	
	【予習】テキスト第3章・第4章を熟読し、授業中の議論に備える。	120
第3回	社会心理学の主要な実証研究1	
	【予習】テキスト第2章前半を熟読し、授業中の議論に備える。	90

第4回	社会心理学の主要な実証研究 2	
	【予習】テキスト第2章後半を熟読し、授業中の議論に備える。	90
第5回	認知と感情	
	【予習】テキスト第5章を熟読し、授業中の議論に備える。	90
第6回	自己認識と自己理解	
	【予習】テキスト第6章を熟読し、授業中の議論に備える。	90
第7回	対人認知と社会的比較	
	【予習】テキスト第7章を熟読し、授業中の議論に備える。	90
第8回	集団意思決定とリーダーシップ	
	【予習】テキスト第8章を熟読し、授業中の議論に備える。	90
第9回	社会的ジレンマと文化適応	
	【予習】テキスト第9章および第10章を熟読し、授業中の議論に備える。	90

第10回	ストレスメカニズムと対処方法	
	【予習】配布資料を熟読し、授業中の議論に備える。	90
第11回	個人的モチベーションと社会的モチベーション	
	【予習】配布資料を熟読し、授業中の議論に備える。	90
第12回	組織におけるモチベーションとその成果	
	【予習】配布資料を熟読し、授業中の議論に備える。	90
第13回	創造性研究	
	【予習】配布資料を熟読し、議論に備える。	90
第14回	集団ダイナミクスと態度変化	
	【予習】配布資料を熟読し、授業中の議論に備える。	90
第15回	まとめ	
	【予習】第2回から第14回の議論をふりかえり、理解を深めておく。 【復習】テキスト全体および配布資料を再度読み直し、課題レポートを作成する。	120

授業の方法

毎回テキストあるいは配布資料を題材とした発表を踏まえて、ディスカッションを行います。

成績評価の方法

発表（30%）、討議（30%）、学期末レポート（40%）によって総合評価します。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

次の点に着目し、その到達度により評価します。

- ①社会心理学の特徴を心理学全体における位置づけから理解する。
- ②社会心理学に関する主要な知見を学ぶ。
- ③いくつかの社会心理学理論等を応用して、実社会の現象について議論できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

山崎俊男編 『社会心理学キーワード』 有斐閣双書 ISBN4-641-05872-5

参考書

ジンバルドー著 「現代心理学Ⅱ第10版」サイエンス社 ISBN4-7819-0049-6 C3011

ジンバルドー著 「現代心理学Ⅲ第10版」サイエンス社 ISBN4-7819-0050-x C3011

その他、必要に応じて授業中に指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知します。

科目名	人間情報処理研究		
教員名	山崎 由香里		
科目ナンバー	2030732003	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要			
<p><テーマ>組織に関連する人々の情報処理傾向を修得する。 ビジネスや組織での活動において、人々は必ず何らかの情報を処理して判断を下します。正確な情報を用いて的確な判断を行うことが望ましいわけですが、常に優れた決断が行われるとは限りません。人はなぜ、後悔を招くような判断を行ってしまうのでしょうか。本授業では、人間の情報処理のメカニズムを学び、企業におけるさまざまな事例を通じて的確な判断を下すために必要なものについて、議論、考察します。</p>			

到達目標			
<p>【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解), DP3(研究能力及び発信力) 【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解), DP7(論理的思考力), DP8(総合マネジメント力), DP9(他社との協働), DP10(表現力及び発信力) 【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解), DP12(研究能力及び発信力) 【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解), DP17(論理的思考力), DP18(総合マネジメント力), DP19(他社との協働), DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。 ・人間の情報処理に関連する諸理論を修得し、意思決定のメカニズムを学びます。 ・企業事例から、現実の人々の意思決定傾向を把握し、的確な判断を導く方法について議論、考察する能力を身につけます。</p>			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス: 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。成績評価方法を確認する。 次回以降の報告担当者を決める。		
		【予習】 シラバスをよく読み、テキストを確認する。 【復習】 テキストの概要を把握する。	60
第2回	「第1部 知覚、記憶、コンテキスト」 より1章		
		【予習】 全員が次回取り上げる章を通読し、提起すべき問題を準備する。担当者は報告準備も行う。	60
第3回	「第2部 質問のしかたで回答は変わる」 #1		
		【予習】 全員が次回取り上げる章を通読し、提起すべき問題を準備する。担当者は報告準備も行う。	60

第4回	「第2部 質問のしかたで回答は変わる」 #2	
	【予習】全員が次回取り上げる章を通読し、提起すべき問題を準備する。担当者は報告準備も行う。	60
第5回	「第3部 意思決定のモデル」 #1	
	【予習】全員が次回取り上げる章を通読し、提起すべき問題を準備する。担当者は報告準備も行う。	60
第6回	「第3部 意思決定のモデル」 #2	
	【予習】全員が次回取り上げる章を通読し、提起すべき問題を準備する。担当者は報告準備も行う。	60
第7回	「第3部 意思決定のモデル」 #3	
	【予習】全員が次回取り上げる章を通読し、提起すべき問題を準備する。担当者は報告準備も行う。	60
第8回	「第4部 ヒューリスティックとバイアス」 #1	
	【予習】全員が次回取り上げる章を通読し、提起すべき問題を準備する。担当者は報告準備も行う。	60
第9回	「第4部 ヒューリスティックとバイアス」 #2	
	【予習】全員が次回取り上げる章を通読し、提起すべき問題を準備する。担当者は報告準備も行う。	60

第10回	「第4部 ヒューリスティックとバイアス」 #3	
	【予習】全員が次回取り上げる章を通読し、提起すべき問題を準備する。担当者は報告準備も行う。	60
第11回	「第4部 ヒューリスティックとバイアス」 #4	
	【予習】全員が次回取り上げる章を通読し、提起すべき問題を準備する。担当者は報告準備も行う。	60
第12回	「第4部 ヒューリスティックとバイアス」 #5	
	【予習】全員が次回取り上げる章を通読し、提起すべき問題を準備する。担当者は報告準備も行う。	60
第13回	「第5部 判断と意思決定の社会的側面」 より1章	
	【予習】全員が次回取り上げる章を通読し、提起すべき問題を準備する。担当者は報告準備も行う。	60
第14回	「第6部 よくある落とし穴」 より1章	
	【予習】全員が次回取り上げる章を通読し、提起すべき問題を準備する。担当者は報告準備も行う。	60
第15回	「終わりに--一歩下がって」 総括	
	【予習】全員が次回取り上げる章を通読し、提起すべき問題を準備する。担当者は報告準備も行う。 【復習】授業で学んだ情報処理傾向をまとめる。	120

授業の方法

テキストの輪読とディスカッションを中心とした授業です。
時折、各自で企業事例を調査し、報告してもらうこともあります。
なお、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組んでください。また、理解度に応じて各回のテーマ変更する可能性があります。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）（20%）、報告時の成果（20%）、提出課題（20%）、授業態度（問題提起、意見表明、ディスカッション等の授業貢献度）（40%）を基準に、総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

下記の点を重視します。

- ①テキストで紹介された諸理論を体系的に理解していること。
- ②諸理論を、実際の企業事例に当てはめて考え、問題提起や議論ができること。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

経営学（組織論，戦略論）に関する基礎知識

テキスト

『判断力—判断と意思決定のメカニズム』，スコット・ブラウス，日本経済新聞出版社，¥2,376，ISBN-10: 4532605237

参考書

『組織における意思決定の心理』，山崎由香里，同文館出版，¥3,360，ISBN-13: 9784495379919

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	国際会計研究		
教員名	高橋 史郎		
科目ナンバー	2030733003	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

“会計ビッグバン”という衝撃的な言葉に象徴されるように、日本の会計制度は大きく揺れ動いています。国際標準への調和化に伴う大きな地殻変動です。この大きな動きの本質をつかむためには、わが国の会計制度だけではなく、国際会計についての知識を獲得することが不可欠になります。この授業では、日本の会計に大きな影響を与えている国際会計の概要（基本部分）を習得し、さらに国際ビジネスという現場での問題点を考察していきます。

到達目標

【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解)，DP3(研究能力及び発信力)
【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解)，DP7(論理的思考力)，DP8(総合マネジメント力)，DP9(他社との協働)，DP10(表現力及び発信力)
【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解)，DP12(研究能力及び発信力)
【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解)，DP17(論理的思考力)，DP18(総合マネジメント力)，DP19(他社との協働)，DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。

①日本の会計とグローバル・スタンダードである国際会計との相違点を理解する。
②国際会計基準のポイントについて理解する。
③国際会計基準への対応方法について考察する。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、ルール、成績評価方法などを確認する。 ・受講生それぞれのこれまでの会計に関する学習状況を確認する。	
	【予習】会計学に関して、これまで使用したテキストや資料を読み直し、基本的な知識を復習しておく。	60
第2回	国際会計の領域 ・グローバル・スタンダードを目指す国際会計で扱われる学問領域を確認する。	
	【復習】授業で配布した資料を読み直し、重要なトピックやキーワードについて説明できるようにする。	60
第3回	財務報告の国際化と国際会計基準（国際財務報告基準） ・国際基準の概要と日本の会計基準との違いについて理解する。	
	【復習】授業で配布した資料を読み直し、重要なトピックやキーワードについて説明できるようにする。	60

第4回	国際会計基準審議会 ・国際会計の基準設定機関について、その機能や組織について理解する。	
	【復習】授業で配布した資料を読み直し、重要なトピックやキーワードについて説明できるようにする。	60
第5回	外貨換算会計1 ・外貨建ての財務諸表を本国通貨ベースに換算するための方法について理解する。	
	【復習】授業で配布した資料を読み直し、重要なトピックやキーワードについて説明できるようにする。	60
第6回	外貨換算会計2 ・各種の換算方法の概要を確認し、外貨換算に関わる問題点を考察する。	
	授業で配布した資料を読み直し、重要なトピ【復習】ックやキーワードについて説明できるようにする。	60
第7回	企業結合会計1 ・企業の買収や合併などの取引を処理するための会計方法について学習する。	
	【復習】授業で配布した資料を読み直し、重要なトピックやキーワードについて説明できるようにする。	60
第8回	企業結合会計2 ・企業結合の実例を取り上げ、買収や合併に伴って発生する問題点について考察する。	
	【復習】授業で配布した資料を読み直し、重要なトピックやキーワードについて説明できるようにする。	60
第9回	国際課税と国際税務会計1 ・国際的な会計取引によって生ずる国際会計と国際税務の概要を確認する。	
	【復習】授業で配布した資料を読み直し、重要なトピックやキーワードについて説明できるようにする。	60

第10回	国際課税と国際税務会計2 ・国際的な会計取引によって発生する諸問題を明らかにし、その対応方法について考察する。	
	【復習】授業で配布した資料を読み直し、重要なトピックやキーワードについて説明できるようにする。	60
第11回	従業員給付の会計1 ・従業員給付やストック・オプションなどの従業員給付について、その概要を理解する。	
	【復習】授業で配布した資料を読み直し、重要なトピックやキーワードについて説明できるようにする。	60
第12回	従業員給付の会計2 ・国際基準の導入により、日本の従業員給付が今後どのように変化していくかを考察する。	
	【復習】授業で配布した資料を読み直し、重要なトピックやキーワードについて説明できるようにする。	60
第13回	国際ビジネス会計 ・グローバルに事業活動を展開している企業が直面する問題点について考察する。	
	【復習】授業で配布した資料を読み直し、重要なトピックやキーワードについて説明できるようにする。	60
第14回	国際会計トピックス ・グローバルに事業活動を展開している企業の事例について、問題点や課題を考察する。	
	【復習】授業で配布した資料を読み直し、重要なトピックやキーワードについて説明できるようにする。	60
第15回	授業のまとめ ・これまでの学習内容を振り返り、各自が理解度を確認する。質疑応答を行う。	
	【復習】これまでの学習で理解が不十分な点を補い、国際会計を取り巻く状況について自分の言葉で説明できるようにする。	60

授業の方法

毎回の授業では、まず講義形式による概要説明を行い、その上で質疑応答をします。さらに受講者それぞれに授業のテーマと関連する考察材料を収集してもらい、次回の授業で報告・ディスカッションを行います。数回の課題提出や問題練習を予定しています。質問などは、教室やメールで随時受け付けます。

成績評価の方法

平常点（授業態度や質疑応答など）と提出課題の内容により総合的に評価します。評価要素の目安は、以下の通りです。

- 授業への参加状況： 40%
- 提出課題： 60%

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①日本の会計とグローバル・スタンダードである国際会計との違いを理解できたか。
- ②国際会計基準のポイントについて説明できるか。
- ③国際会計基準への対応方法について考察することができたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

学部レベルの会計学関連科目を履修済みであることが望まれます。

テキスト

特定のテキストは使用しません。授業でプリントを配布します。

参考書

- ・『テキスト国際会計基準』、桜井久勝編著、白桃書房、3、300円＋税。
 - ・『新・現代会計入門』、伊藤邦雄著、日本経済新聞社、3、500円＋税。
- 上記以外の参考書も授業中に随時紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	租税法基礎研究		
教員名	伊藤 公哉		
科目ナンバー	2030733004	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要			
この科目は、学部レベルの租税法の知識があることを前提に、大学院生（修士課程）を対象とした授業で、テーマは「租税判例（重要判例）の読解」です。 租税判例（重要判例）を検討し報告する作業を通して、租税法の法的思考能力を醸成します。			

到達目標			
【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解)，DP3(研究能力及び発信力) 【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解)，DP7(論理的思考力)，DP8(総合マネジメント力)，DP9(他社との協働)，DP10(表現力及び発信力) 【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解)，DP12(研究能力及び発信力) 【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解)，DP17(論理的思考力)，DP18(総合マネジメント力)，DP19(他社との協働)，DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。 (1) リーガル・リサーチのスキルを身につけ実践できるようになる (2) 意見を形成し、客観的な証拠に基づいた法的論証ができるようになる			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)	
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	・ガイダンス、リーガル・リサーチと法律文献の引用方法 ・報告分担の決定		
	【復習】 データベースを実際に操作してリーガル・リサーチに慣れる。	90	
第2回	大嶋訴訟（§111.01）（給与所得課税§131.01）		
	【予習】 報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】 参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120	
第3回	大阪銘板事件 法律と政令（§122.01）		
	【予習】 報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】 参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120	

第4回	旭川市国民健康保険条例事件 (§ 1 2 1 . 0 2)	
	【予習】 報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】 参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120
第5回	土地譲渡損失損益通算否定事件 (§ 1 2 5 . 0 1)	
	【予習】 報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】 参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120
第6回	パチンコ球遊器事件 (§ 1 4 0 . 0 2)	
	【予習】 報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】 参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120
第7回	東京産業信用金庫事件 (§ 1 6 1 . 0 2)	
	【予習】 報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】 参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120
第8回	武富士事件 (§ 1 6 2 . 0 1)	
	【予習】 報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】 参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120
第9回	財産分与契約 (§ 1 6 3 . 0 1)	
	【予習】 報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】 参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120

第10回	相互売買事件 (§ 1 6 4 . 0 2)	
	【予習】 報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】 参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120
第11回	外国税額控除余裕枠銀行事件 (§ 1 6 4 . 0 4)	
	【予習】 報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】 参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120
第12回	パラツイーナ事件 (§ 1 6 4 . 0 5)	
	【予習】 報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】 参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120
第13回	文化学院事件 (§ 1 6 6 . 0 2)	
	【予習】 報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】 参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120
第14回	利息制限法違反事件 (§ 2 1 1 . 0 2)	
	【予習】 報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】 参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120
第15回	マンション建設承諾料事件 (§ 2 1 1 . 0 5) (※扱う事件は、受講者の理解・関心に応じて変更することがあります)	
	【予習】 報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】 参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120

授業の方法

講義及びゼミ形式で実施します。受講者は予習をし、また報告者はレジュメ（Wordで作成）を用意してください。
なお、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。

成績評価の方法

報告内容（70%）および授業への貢献（問いかけへの応答等）の平常点（30%）により総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- (1) リーガル・リサーチのスキルを身につけ実践できるようになる
- (2) 自分の意見を形成し、客観的な証拠に基づいた法的論証ができるようになる

必要な予備知識／先修科目／関連科目

議論に積極的に参加するためには学部レベルの租税法の知識が不可欠になります。不安な場合には、金子宏『租税法』（弘文堂）などで予習をしてくることをお勧めします。また、関連する法分野としては、憲法、民商法などがあります。

テキスト

金子宏ほか編著『ケースブック租税法』（弘文堂、最新版）を予定しています。

参考書

金子宏『租税法』（弘文堂）など。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	データ分析基礎研究		
教員名	田中 研太郎		
科目ナンバー	2030734001	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要			
<p>実際のデータ分析においては、回帰分析や仮説検定などの統計的な手法が非常によく使われている。また、データ分析の結果を分かりやすく伝えるためにはデータビジュアライゼーション(データの可視化)による仕上げが欠かせない。この授業では、まず、回帰分析や仮説検定などのやり方と考え方について、いくつかの文献で取り上げられている実例を用いながら学んでいく。</p> <p>そして、「R」という統計処理環境と「Microsoft Office」などを駆使して、コンピューターによるデータの分析手法とそのビジュアライゼーション(視覚化)について学んでいく。</p>			

到達目標			
<p>【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解), DP3(研究能力及び発信力) 【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解), DP7(論理的思考力), DP8(総合マネジメント力), DP9(他社との協働), DP10(表現力及び発信力) 【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解), DP12(研究能力及び発信力) 【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解), DP17(論理的思考力), DP18(総合マネジメント力), DP19(他社との協働), DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 回帰分析や仮説検定などの統計的な手法について理解する。 2. データビジュアライゼーションによって効果的な情報伝達ができるようになる。 			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス: i) なぜ統計的な手法を用いる必要があるのか? ii) 回帰分析や仮説検定の概要		
	【予習】	シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	60分
第2回	統計学における仮説検定の考え方について		
	【予習・復習】	仮説検定の基本的な考え方について予習・復習しておく。	60分
第3回	回帰分析の手法について (OfficeやRを使った回帰分析のやり方について)		
	【予習・復習】	OfficeやRを用いた回帰分析の流れについて予習・復習する。 【課題】 回帰分析に関するレポート課題に取り組む。	60分

第4回	回帰分析が用いられている実際の例について考える（その1）	
	【予習・復習】回帰分析の手法や考え方について予習・復習しておく。	60分
第5回	回帰分析の結果のビジュアライゼーション	
	【予習・復習】回帰分析の結果のビジュアライゼーションの方法について予習・復習しておく。	120分
第6回	回帰分析が用いられている実際の例について考える（その2）	
	【予習・復習】回帰分析の手法や考え方について予習・復習しておく。	60分
第7回	各自の研究分野についての討論	
	【予習】各自の研究分野でどのようなデータ分析の手法が使われているか調べてくる。	60分
第8回	種々の回帰分析：ダミー変数を用いた回帰分析	
	【予習・復習】ダミー変数を用いた回帰分析の手法について予習・復習しておく。	120分
第9回	種々の回帰分析：トービットモデルによる推定	
	【予習・復習】トービットモデルについて予習・復習しておく。	60分

第10回	種々の回帰分析：ロジスティック回帰分析	
	【予習・復習】ロジスティック回帰分析の手法について予習・復習しておく。	60分
第11回	これまでのまとめ	
	【予習】これまでの内容について質問したいことや確認したいことなどをまとめておく。	120分
第12回	興味あるデータについての討論 その1	
	【課題】自分が興味あるデータについて調べてくる。それらのデータについての発表資料(1~3ページ)を作ってくる。	60分
第13回	興味あるデータについての討論 その2	
	【課題】自分が興味あるデータについて調べてくる。それらのデータについての発表資料(1~3ページ)を作ってくる。	120分
第14回	興味あるデータについての分析とビジュアライゼーション	
	【予習】自分が興味あるデータについて、討論の結果を踏まえて、どのような分析をすればよいのかを考えてくる。	60分
第15回	まとめ	
	【課題】最終レポート課題に取り組む。	120分

授業の方法

多変量解析の手法について基本事項を解説した後、PC教室にあるパソコンを用いて演習を行う。
授業内容の理解のために、適宜レポート演習課題を与える。

成績評価の方法

成績の配点は、授業への参加状況などの平常点50%、レポート50%を目安とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 11-2.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- i) 状況に応じて適切な多変量データ解析手法が選択できる。
- ii) RやOfficeを用いて実際のデータ解析ができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

Excelの基本的な操作についての知識

テキスト

授業中に随時紹介する。

参考書

授業中に随時紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	エコノメトリクス基礎研究		
教員名	鷹岡 澄子		
科目ナンバー	2030734002	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要			
<p>本科目では、エコノメトリクスの基礎理論を学ぶとともに、実際のデータを用いて理論を応用する方法を学ぶ。 エコノメトリクスはその長い歴史の中で、様々な推定方法が確立されると同時に、問題点も指摘されてきた。理論面の発展のみでなく、 たくさんの方々の応用分析にもエコノメトリクスの手法は有用であり、重要度が増してきている。 講義で学んだ理論をもとにして、コンピュータを用いた演習を通じて実際に推計を授業中に行う。この繰り返しによって、理論と応用を 身につけていく。なお、履修学生の予備知識や授業の進捗状況によって、以下の授業の計画・内容を一部変更する場合がある。</p>			

到達目標			
<p>【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解)、DP3(研究能力及び発信力) 【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解)、DP7(論理的思考力)、DP8(総合マネジメント力)、DP9 (他社との協働)、DP10(表現力及び発信力) 【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解)、DP12(研究能力及び発信力) 【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解)、DP17(論理的思考力)、DP18(総合マネジメント力)、 DP19(他社との協働)、DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコノメトリクスの基礎的な理論と応用力を身につける。 ・推定結果をプレゼンテーションし、内容を説明することができる。 ・学んだ推計方法を用いて期末レポートをまとめることができる。 			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス(履修学生の予備知識などについて確認) 経済数学初歩の復習		
	【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 授業の内容を確認する。		60
第2回	経済数学初歩の復習(つづき) 授業で使用する計量ソフトウェアのガイダンス		
	【予習】 使用するデータや資料などのダウンロード。 【復習】 授業の内容を再度実行する。		90
第3回	最小二乗法の基礎理論について		
	【予習】 授業資料を読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60

第4回	最小二乗法の基礎理論について(つづき)	
	【予習】 授業資料を読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。	60
第5回	経済データを用いた演習	
	【予習】 使用するデータなどのダウンロード。 【復習】 授業の内容を確認する。	60
第6回	係数の意味・解釈	
	【予習】 授業資料を読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。	60
第7回	仮説検定の基礎理論	
	【予習】 授業資料を読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。	60
第8回	経済データを用いた演習	
	【予習】 使用するデータなどのダウンロード。 【復習】 授業の内容を確認する。	60
第9回	特殊な変数と多重共線関係など	
	【予習】 授業資料を読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。	90

第10回	経済データを用いた演習	
	【予習】 使用するデータなどのダウンロード。 【復習】 授業の内容を確認する。	60
第11回	構造変化の検定	
	【予習】 授業資料を読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。	60
第12回	経済データを用いた演習	
	【予習】 使用するデータなどのダウンロード。 【復習】 授業の内容を確認する。	60
第13回	時系列分析の基礎	
	【予習】 授業資料を読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。	60
第14回	経済データを用いた演習	
	【予習】 使用するデータなどのダウンロード。 【復習】 授業の内容を確認する。	60
第15回	まとめ	
	【予習】 今までの授業内容の確認。 【復習】 授業の内容を確認する。	60

授業の方法

授業は講義とコンピュータ演習を行う。学生は、コンピュータ演習のつど、課題を授業中に作成し、提出することを求められる。課題の答え合わせを授業中に行うので、次回の授業にわからないところを持ち越さないようにすること。
なお、授業資料やデータは配布する。

成績評価の方法

演習課題提出(約30%)、学期末レポート(約70%)

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準(学則第11条の2)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.
上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

必要な予備知識/先修科目/関連科目

統計学、ミクロ経済学、マクロ経済学

テキスト

教員が準備し、配布する。

参考書

適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

オフィス・アワーについては、ポータルサイトで周知する。

科目名	統計調査研究		
教員名	井出 多加子		
科目ナンバー	2030734005	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

『社会調査』の基礎知識と実践
 社会調査の代表的手法であるアンケート調査は、企業のマーケティングだけでなく内閣支持率にいたるまで幅広く実施され、提案や政策の信頼性を高めるためのエビデンスとして重視されてきています。また近年、日本の公的調査において不適切な方法で調査が行われ、政策の信頼性を揺るがすほどの社会問題になっています。
 このクラスでは、実際に行われたアンケート調査のデータを用いて、エクセルで集計や簡単な分析を行いながら、アンケート調査等の基礎を学びます。

到達目標

【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解), DP3(研究能力及び発信力)
 【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解), DP7(論理的思考力), DP8(総合マネジメント力), DP9(他社との協働), DP10(表現力及び発信力)
 【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解), DP12(研究能力及び発信力)
 【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解), DP17(論理的思考力), DP18(総合マネジメント力), DP19(他社との協働), DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。

- ①調査倫理や調査の設計、標本抽出などに社会調査に関する基礎知識を習得できる。
- ②マイクロソフト社のエクセルで大量データの集計ができる。
- ③実際に行われたアンケート調査を批判的に検討することで、調査の課題改善を提案できる。

※ 一昨年度は、アンケート調査をゼロから作成して学内で実施しました。
 昨年度は、NPOと協力して実地調査を行いました。
 今年度は特に、インターネット調査と紙ベースによる調査を比較したいと思います。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	以下の予定だが、外部団体の都合や授業の進行の状況で変わることがあるので、ポータルへの連絡に注意すること。	
	イン트로ダクション ①履修に関する日程、評価などの連絡事項 ②エクセルの利用 履修者のエクセル技術を知るため、ごく簡単なレベルチェックテストを実施。 エクセルの簡単な操作確認 習得度の差があっても、当初の段階では問題にならない。	60
第2回	社会調査とは(1) ・社会調査の基礎 ・社会調査の種類他	
	ポータル掲示資料を読んでおく。 また実際にやってみたいアンケート調査、インターネット調査を考えておく	60
第3回	社会調査とは(2) ・アンケート調査の流れ ・仮説と調査の目的他	
	ポータル掲示資料を読み、課題テーマに関する情報をHPなど集めておく。	60

第4回	社会調査の実際（1） ・実際に行われた公的調査とインターネット調査を選び、それぞれの調査の特徴や目的などを比較する。	
	ポータル掲示資料を読み、課題テーマに関する情報をHPなど集めておく。	60
第5回	社会調査の実際（2） ・前回に引き続き、複数の調査を比較し改善点を検討する。	
	ポータル配布の説明資料とエクセルファイルを確認しておく。	60
第6回	アンケート調査（1） ・過去のアンケート調査のデータを利用して、集計作業などを行う。 ・仮説を立てて調査目的を批判的に検討する。	
	ポータル配布の説明資料とエクセルファイルを確認しておく。	60
第7回	アンケート調査（2） ・前回のデータについて、標本抽出（層化二段無作為抽出まで）をエクセルで作業する。 ・信頼できる調査を行うための調査設計について学ぶ	
	当該テーマの事業者や産業が抱える課題をHPなどで調査	60
第8回	アンケート調査（3） ・前回からのデータをもとに、自分が立てた仮説について、全数調査と標本調査で結果を比較し、違いを批判的に検討する。	
	各自が行ったブレ調査の結果を、クラスで紹介できるようにまとめておく	90
第9回	アンケート調査（4） ・前回からのデータをもとに、自分が立てた仮説について、全数調査と標本調査で結果を比較し、違いを批判的に検討する。	
	調査実施のための調査票の手配やスタッフのスケジュール調整などをおこなう	60

第10回	自ら調査を設計する（1） ・履修者それぞれの研究目的に応じて、仮説を立てて調査を設計する。特に調査目的、アンケート調査やインタビュー調査の場合の質問項目なども考える。	
	調査結果を事前チェック	60
第11回	自ら調査を設計する（2） ・履修者それぞれの研究目的に応じて、仮説を立てて調査を設計する。特に調査目的、アンケート調査やインタビュー調査の場合の質問項目なども考える。	
	調査結果のエクセルファイルで、担当部分を集計	90
第12回	自ら調査を実施・集計する（1） ・自ら作成した調査を実施する。	
	調査結果のエクセルファイルで、集計結果のグラフ作成やPP作成をおこなう	60
第13回	自ら調査を実施・集計する（2） ・自ら作成した調査の結果を集計し、観察された傾向や課題を考える。	
	調査結果のエクセルファイルで、集計結果のグラフ作成やPP作成をおこなう	60
第14回	最終プレゼンテーション（1） 学内でグループ別発表と質疑応答	
	最終プレゼンテーションに向けて資料の準備	90
第15回	最終プレゼンテーション（2） 学内でグループ別発表と質疑応答	
	最終プレゼンテーションに向けて資料の準備	90

授業の方法

毎回パソコンを利用して、少人数で教員と相談しながら行う参加型の実習形式。エクセルなどを利用した通常の作業に加えて、集計に関する課題が提示される。自ら調査を設計し、授業時間を利用して実施する。

成績評価の方法

以下の3点で総合的に評価する。

- ① 授業への積極的参加（授業中の発言や適切な作業実施）（20%）
 - ② 複数の調査を比較して発表する。（20%）
 - ③ 大量のアンケート調査のデータをエクセルで集計する課題の提出（20%）
 - ④ 自分で考えた調査についてその内容と実施結果に関する最終発表（40%）
- 期末試験は実施しない。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：情報基礎

テキスト

授業中に配布するプリント等。

参考書

「社会調査法入門」盛山和夫 有斐閣 ISBN:9784641183056

その他適時授業開始時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	公共経済学研究		
教員名	中神 康博		
科目ナンバー	2030735001	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

少子高齢化が進むなかで日本の都市、地方は様々な問題を抱えている。本講義は、都市・地方が直面する具体的な政策課題について経済学的な分析を行うことを目的とする。取り扱うテーマは、土地利用政策、住宅政策、地方財政、政府間財政関係、ニューパブリックマネジメントなど。

到達目標

【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解)、DP3(研究能力及び発信力)
【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解)、DP7(論理的思考力)、DP8(総合マネジメント力)、DP9(他社との協働)、DP10(表現力及び発信力)
【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解)、DP12(研究能力及び発信力)
【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解)、DP17(論理的思考力)、DP18(総合マネジメント力)、DP19(他社との協働)、DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。
都市・地方が抱える政策課題について経済学的な視点で考える方法を身につけることを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 講義の目的と到達目標	
	【予習】講義の目的と到達目標を理解し、今後に向けて準備を行う。	60
第2回	土地利用政策I	
	【予習】教科書第8章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120
第3回	土地利用政策II	
	【予習】教科書第8章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120

第4回	土地利用政策III	
	【予習】教科書第8章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120
第5回	住宅政策I	
	【予習】教科書第5・6章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120
第6回	住宅政策II	
	【予習】教科書第5・6章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120
第7回	住宅政策III	
	【予習】教科書第5・6章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120
第8回	都市財政I	
	【予習】教科書第9章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120
第9回	都市財政II	
	【予習】教科書第9章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120

第10回	政府間財政関係I	
	【予習】教科書第9章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120
第11回	政府間財政関係II	
	【予習】教科書第9章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120
第12回	政府間財政関係III	
	【予習】教科書第9章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120
第13回	ニューパブリックマネジメントI	
	【予習】配付された論文（未定）を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120
第14回	ニューパブリックマネジメントII	
	【予習】配付された論文（未定）を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120
第15回	講義のまとめを行う。	
	【復習】講義の中で議論された内容の論点整理を行う。	120

授業の方法

金本良嗣・藤原徹共著『都市経済学（第2版）』の輪読を中心に、日本の都市が直面する政策課題についてディスカッション形式で議論を進めていく。

成績評価の方法

報告内容（60%）や授業内における発言・質問（40%）など、平常点をもとに総合的な評価を行う。

成績評価の基準

都市・地方が抱える政策課題について、どの程度経済学的な視点で考える方法を身につけることができたかを評価の判断基準とする。なお、成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

金本良嗣・藤原徹共著『都市経済学（第2版）』東京経済新報社
ISBN978-4-492-81303-4

参考書

必要に応じて参考文献を紹介する。また、ニューパブリックマネジメントに関する文献については別途指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	環境マネジメント研究		
教員名	田口 誠		
科目ナンバー	2030735004	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

テーマ：「企業の環境マネジメントに関わる理論・実証・事例研究について学ぶ」

企業の周囲に存在するステークホルダーの自然環境保全意識が向上し、環境問題への適切な対応は、あらゆる産業に属する企業が経営戦略を考える上で重要な課題となっています。

環境保全に関するニーズは、環境に配慮した製品の競争戦略、エコビジネス市場の拡大による事業戦略、環境負荷を低減するための企業組織の構築、従業員の動機付け、自社および自社製品の環境ブランド化、環境会計の実施、社会的責任論の展開など、企業戦略の多くの側面に関連しています。

授業では、国内および海外における環境マネジメントの理論・実証・事例研究を取り上げ、環境マネジメントに関わる研究方法について学ぶとともに、望ましい環境マネジメントのあり方について考察します。

到達目標

- 【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解)，DP3(研究能力及び発信力)
【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解)，DP7(論理的思考力)，DP8(総合マネジメント力)，DP9(他社との協働)，DP10(表現力及び発信力)
【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解)，DP12(研究能力及び発信力)
【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解)，DP17(論理的思考力)，DP18(総合マネジメント力)，DP19(他社との協働)，DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。
1. 企業と環境問題に関する論文を読み、構成や内容を理解できるようにすること
 2. 英語で書かれた基本的な文献を読み、内容を理解できるようにすること

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	イントロダクション ・受講者が関心を持つ分野に基づいてテキストを決定する。	
	【復習】この授業の意義について説明できるようにする。	60
第2回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60
第3回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60

第4回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60
第5回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60
第6回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60
第7回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60
第8回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60
第9回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60

第10回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60
第11回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60
第12回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60
第13回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60
第14回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60
第15回	授業のまとめ・質疑応答	
	【復習】この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度を点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	60

授業の方法

国内外の文献を輪読する。受講者による報告形式を中心に進める。
課題として指定された文献を授業の前に読んでから出席すること。

成績評価の方法

平常点100%による評価（授業への参加70%、宿題の報告30%）
学期末試験は実施しない。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

教科書として指定した文献の内容や構造を理解しているかに着目し、その達成度により評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

授業において適宜、指示する。

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	福祉問題研究		
教員名	丸山 桂		
科目ナンバー	2030735005	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要			
<p>テーマは、少子高齢化と社会保障です。 急速に進む少子高齢化とともに、社会保障費用の増大が問題となっている。ライフスタイル、就労形態、福祉の供給源の多様化など、社会保障制度が前提としてきた社会像が変容しているなかで、新たな社会保障制度のあり方が求められている。</p> <p>本講義では、年金、医療、社会福祉（労災、雇用保険、住宅政策、労働政策含む）を対象に、受講者と相談の上、国内、海外の論文を輪読し、経済学の視点で考察することを目的とする。 発表者はレジュメを作成し、発表をおこない、履修者、教員と議論を行う。そして、特定のテーマについて最終レポートを提出することとする。</p> <p>取り上げるトピックスは、受講生と相談の上、決定する。</p>			

到達目標			
<p>【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解)，DP3(研究能力及び発信力) 【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解)，DP7(論理的思考力)，DP8(総合マネジメント力)，DP9(他社との協働)，DP10(表現力及び発信力) 【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解)，DP12(研究能力及び発信力) 【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解)，DP17(論理的思考力)，DP18(総合マネジメント力)，DP19(他社との協働)，DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。</p> <p>①経済学や経営学の視点からの社会保障の理論を説明できる。 ②現行制度の問題点を各種データや客観的な資料に基づき、説明できる。 ③論理的な思考に基づいた具体的な改革案を提示できる。</p>			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・研究倫理について ・授業の内容、進め方、課題レポートの説明、論文の選定を行う。		
		【予習】 シラバスを熟読する。 【復習】 指示された論文を熟読する。	60
第2回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。		
		【予習】 論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】 図書館で関連文献を探す。	60
第3回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。		
		【予習】 論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】 図書館で関連文献を探す	60

第4回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す。	60
第5回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す。	60
第6回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す	60
第7回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す	60
第8回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す。	60
第9回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す。	60

第10回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館等で関連文献を探す。	60
第11回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す	60
第12回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す。	60
第13回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す。	60
第14回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す。	60
第15回	テキストの輪読・ディスカッション、まとめ ・指定された論文の輪読をおこなう。 ・課題レポートの執筆方法について説明する。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す。これまでの発表を振り返り、課題レポートの内容をまとめる。	120

授業の方法

履修者の報告と、教員・履修者全員によるディスカッションを中心とする演習形式で行う。

評価の視点は以下の通りである。

報告内容・授業への貢献：発表論文をレジメを的確にまとめ、考察できる。授業時の質疑応答の積極性。

課題レポート：複数の資料を用いて、論理的に現状の分析と課題をまとめ、レポートを作成できる。

成績評価の方法

報告内容・授業への貢献を含めた平常点（60%程度）と課題レポート（40%程度）により、総合的に評価する。

病欠等場合には、必ず事前に連絡を入れること。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

次の3点に着目し、その達成度に応じて、評価する。

- ①経済学や経営学の視点からの社会保障の理論を説明できる。
- ②現行制度の問題点を各種データや客観的な資料に基づき、説明できる。
- ③論理的な思考に基づいた具体的な改革案を提示できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識や先修科目はない。関連科目は大学院における公共政策ユニットの科目。

テキスト

第1回目の授業時に履修者と相談の上、決定する。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	資産選択理論研究		
教員名	時岡 規夫		
科目ナンバー	2030736001	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要			
<p>現代ファイナンスは、経済主体の金融に関わる意思決定を取り扱う分野です。その中には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資金の供給主体で証券の需要主体である投資家の資産選択問題などをテーマとする証券投資 (Investments) ・ 資金の需要主体で証券の供給主体である企業の投資政策や資本構成や配当政策などをテーマとするコーポレートファイナンス (Corporate Finance) ・ 資金と証券の交換メカニズムである証券市場 (Security Markets) や銀行 (Banking) <p>などが含まれます。</p> <p>そのうち、この授業では、証券投資にスポットを当てます。そこでの中心的なテーマは、上で述べたように、資金を持っている投資家がその資金を使ってどの証券 (株式、債券、あるいは、国内資産のみならず外国資産も含めて) にいくら投資をするか、という資産選択の意思決定問題です。その問題に対する1つの答えが、金融実務の世界でもよく知られている資本資産評価モデル (CAPM) です。その主要な結果は、あらゆる株式をある決まった比率で保有することがすべての投資家にとって最適な資産選択になる、というものです。この授業では、単にモデルの結果を紹介するだけでなく、前提となる人間の選択や結果に至る理論の筋道、関連するトピックスについてもなるべく丁寧に説明することを心がけ、証券投資に対する理解を深めてもらうことをめざします。</p>			

到達目標			
<p>【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2 (専門分野の知識・理解), DP3 (研究能力及び発信力)</p> <p>【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6 (専門分野の知識・理解), DP7 (論理的思考力), DP8 (総合マネジメント力), DP9 (他社との協働), DP10 (表現力及び発信力)</p> <p>【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12 (専門分野の知識・理解), DP12 (研究能力及び発信力)</p> <p>【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16 (専門分野の知識・理解), DP17 (論理的思考力), DP18 (総合マネジメント力), DP19 (他社との協働), DP20 (表現力及び発信力) を実現するため、以下を到達目標とします。</p> <p>リスク、期待効用、平均・分散アプローチ、投資機会集合、トーピンの分離定理、CAPMといった、証券投資のトピックスについての理解を深めることをめざします。</p>			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安 (分)	
	準備学修 (予習・復習等)		
第1回	<p>ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の内容、進め方、予習・復習のしかた等を説明します。 ・ 現代ファイナンス、証券投資の学問上の位置づけを把握します。 		
	<p>【予習】 シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。</p> <p>【復習】 資料等を基に、授業の内容を再確認する。</p>	60	
第2回	<p>リスクの捉え方 (1)</p> <p>※以下、進捗状況等に応じて内容が一部変更される可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リスクの捉え方について学修します。 ・ クイズを出して、理解度を確認することがあります (解説はその回に行ないます)。 		
	<p>【復習】 資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>	90	
第3回	<p>リスクの捉え方 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回にひきつづき、リスクの捉え方について学修します。 ・ クイズを出して、理解度を確認することがあります (解説はその回に行ないます)。 		
	<p>【復習】 資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>	90	

第4回	<p>期待効用 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期待効用について学修します。 ・クイズを出して、理解度を確認することがあります (解説はその回に行ないます)。 	
	<p>【復習】資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>	90
第5回	<p>期待効用 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回到ひきつづき、期待効用について学修します。 ・クイズを出して、理解度を確認することがあります (解説はその回に行ないます)。 	
	<p>【復習】資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>	90
第6回	<p>平均・分散アプローチ (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均・分散アプローチについて学修します。 ・クイズを出して、理解度を確認することがあります (解説はその回に行ないます)。 	
	<p>【復習】資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>	90
第7回	<p>平均・分散アプローチ (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回到ひきつづき、平均・アプローチについて学修します。 ・クイズを出して、理解度を確認することがあります (解説はその回に行ないます)。 	
	<p>【復習】資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>	90
第8回	<p>投資機会集合 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投資機会集合について学修します。 ・クイズを出して、理解度を確認することがあります (解説はその回に行ないます)。 	
	<p>【復習】資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>	90
第9回	<p>投資機会集合 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回到ひきつづき、投資機会集合について学修します。 ・クイズを出して、理解度を確認することがあります (解説はその回に行ないます)。 	
	<p>【復習】資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>	90

第10回	投資機会集合 (3) ・前回にひきつづき、投資機会集合について学修します。 ・クイズを出して、理解度を確認することがあります (解説はその回に行ないます)。	
	【復習】資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。	90
第11回	トービンの分離定理 (1) ・トービンの分離定理について学修します。 ・クイズを出して、理解度を確認することがあります (解説はその回に行ないます)。	
	【復習】資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。	90
第12回	トービンの分離定理 (2) ・前回にひきつづき、トービンの分離定理について学修します。 ・クイズを出して、理解度を確認することがあります (解説はその回に行ないます)。	
	【復習】資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。	90
第13回	資本資産評価モデル(CAPM) (1) ・資本資産評価モデル(CAPM)について学修します。 ・クイズを出して、理解度を確認することがあります (解説はその回に行ないます)。	
	【復習】資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。	90
第14回	資本資産評価モデル(CAPM) (2) ・前回にひきつづき、資本資産評価モデル(CAPM)について学修します。 ・クイズを出して、理解度を確認することがあります (解説はその回に行ないます)。	
	【復習】資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。	90
第15回	まとめ ・これまでに学修した内容を確認します。	
	【復習】学期末試験に備え、これまでの資料等を基に、講義を振り返り、到達目標と自分の理解を照合し、到達度を点検し、さらに不足している知識等を再確認し、学修する。	120

授業の方法

通常の講義形式で進めます。授業中にクイズを出すことがあります。また、レポートの提出を求めることがあるかもしれません。ふだんから復習に力を入れ、次回の授業にわからないところを持ち越さないように心がけてください。また、上で示された準備学修の時間はあくまでも目安であって、各自の理解度に応じて取り組んでください。なお、クイズ、レポートのねらいは次のとおりです。

- ・クイズ：その回の学修内容についての理解度やキーワードの理解を確認する。
 - ・レポート：課題内容を理解し、学修内容をふまえて自分の理解を明確に説明できているかを確認する。
- 講義自体は、資料等を基に、講義内容を詳述します。

成績評価の方法

学期末試験および授業への参加状況、授業中のクイズやレポートの提出状況・内容等によって総合的に評価します。評価ウエイトは学期末試験が60%、授業への参加状況やクイズ、レポートなどの平常点が40%をめやすとする予定です。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠します。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ・リスク、期待効用、平均・分散アプローチ、投資機会集合、トーピンの分離定理、CAPMといった、証券投資のトピックスについて理解し、明確に説明できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目としては、「マイクロエコノミクス基礎研究」、「コーポレートファイナンス研究」、「証券市場研究」など。

テキスト

現時点では使用するかどうかを含め未定です。

参考書

とりあえず、基本的な文献として

- ・大村 敬一〔著〕、2010、『ファイナンス論：入門から応用まで』、有斐閣（3,200円＋税、ISBN 978-4-641-18383-4）
 - ・大村 敬一・俊野 雅司〔著〕、2000、『証券投資理論入門』、日本経済新聞社（860円＋税、ISBN 4-532-10824-1）
 - ・仁科 一彦〔著〕、2004、『現代ファイナンス理論入門』、第2版、中央経済社（3,500円＋税、ISBN 4-502-37270-6）
 - ・Huang, Chi-fu, and Robert H. Litzenberger, 1988, Foundations for Financial Economics, Prentice-Hall (ISBN 0-13-500653-8)
- を挙げますが、必要最低限の内容は授業の中でも紹介する予定ですので、事前に購入する必要はありません。その他、個々のトピックスに関する参考図書や論文等についても授業の中で適宜紹介していく予定です。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	上級理論研究 (応用ミクロ経済分析5)		
教員名	吉田 由寛		
科目ナンバー	2030741021	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

当科目のテーマは、ミクロ経済学理論の応用による経済現象や社会現象の分析である。単に応用ミクロ経済学の分野での代表的な既存研究を理解するだけではなく、自らこの分野での研究対象を具体的に探し求めること、そして実際に新たな研究成果を出すことが学生には求められる。

到達目標

【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解), DP3(研究能力及び発信力)
 【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解), DP7(論理的思考力), DP8(総合マネジメント力), DP9(他社との協働), DP10(表現力及び発信力)
 【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解), DP12(研究能力及び発信力)
 【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解), DP17(論理的思考力), DP18(総合マネジメント力), DP19(他社との協働), DP20(表現力及び発信力)
 【博士後期課程・経済学専攻】DP21(専門分野の知識・理解), DP22(研究能力及び発信力)
 【博士後期課程・経営学専攻】DP31(専門分野の知識・理解), DP32(研究能力及び発信力)
 を実現するため、以下を到達目標とします。
 ・ 応用ミクロ経済学の分析手法を身に着ける。
 ・ 応用ミクロ経済学の分野で、学術的に価値がある研究成果を出す。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	研究テーマと研究計画の確認	
	研究の方向性と計画を固める。	120
第2回	研究成果の報告1	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第3回	研究成果の報告2	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120

第4回	研究成果の報告3	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第5回	研究成果の報告4	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第6回	研究成果の報告5	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第7回	研究成果の報告6	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第8回	研究成果の報告7	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第9回	研究成果の報告8	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120

第10回	研究成果の報告9	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第11回	研究成果の報告10	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第12回	研究成果の報告11	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第13回	研究成果の報告12	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第14回	公開セミナーへ向けて1	
	公開セミナーでの報告を準備する。	120
第15回	公開セミナーへ向けて2	
	公開セミナーでの報告を準備する。	120

授業の方法

学生による研究成果の報告および提出が中心となる。

成績評価の方法

口述での報告（30 %程度）、提出された研究成果（70 %程度）により総合的に評価する。

成績評価の基準

- ・ 成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
- ・ とりわけ、上述の到達目標への達成度を評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

マイクロ経済学とゲーム理論を十分に理解していること。「上級理論研究（応用マイクロ経済分析1～4）」を既に履修済みであること、さらに「上級理論研究（応用マイクロ経済分析6）」と合わせて履修することが望ましい。

テキスト

初回授業で指定する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	上級理論研究（応用ミクロ経済分析6）		
教員名	吉田 由寛		
科目ナンバー	2030741022	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

当科目のテーマは、ミクロ経済学理論の応用による経済現象や社会現象の分析である。単に応用ミクロ経済学の分野での代表的な既存研究を理解するだけでなく、自らこの分野での研究対象を具体的に探し求めること、そして実際に新たな研究成果を出すことが学生には求められる。

到達目標

【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解), DP3(研究能力及び発信力)
【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解), DP7(論理的思考力), DP8(総合マネジメント力), DP9(他社との協働), DP10(表現力及び発信力)
【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解), DP12(研究能力及び発信力)
【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解), DP17(論理的思考力), DP18(総合マネジメント力), DP19(他社との協働), DP20(表現力及び発信力)
【博士後期課程・経済学専攻】DP21(専門分野の知識・理解), DP22(研究能力及び発信力)
【博士後期課程・経営学専攻】DP31(専門分野の知識・理解), DP32(研究能力及び発信力)

を実現するため、以下を到達目標とします。

- ・ 応用ミクロ経済学の分析手法を身に着ける。
- ・ 応用ミクロ経済学の分野で、学術的に価値がある研究成果を出す。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	研究テーマと研究計画の確認	
	研究の方向性と計画を固める。	120
第2回	研究成果の報告1	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第3回	研究成果の報告2	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120

第4回	研究成果の報告3	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第5回	研究成果の報告4	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第6回	研究成果の報告5	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第7回	研究成果の報告6	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第8回	研究成果の報告7	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第9回	研究成果の報告8	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120

第10回	研究成果の報告9	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第11回	研究成果の報告10	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第12回	研究成果の報告11	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第13回	研究成果の報告12	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第14回	公開セミナーへ向けて1	
	公開セミナーでの報告を準備する。	120
第15回	公開セミナーへ向けて2	
	公開セミナーでの報告を準備する。	120

授業の方法

学生による研究成果の報告および提出が中心となる。

成績評価の方法

口述での報告（30 %程度）、提出された研究成果（70 %程度）により総合的に評価する。

成績評価の基準

- ・ 成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11 条の2）に準拠する。
- ・ とりわけ、上述の到達目標への達成度を評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

ミクロ経済学とゲーム理論を十分に理解していること。「上級理論研究（応用ミクロ経済分析1～4）」を既に履修済みであること、さらに「上級理論研究（応用ミクロ経済分析5）」と合わせて履修することが望ましい。

テキスト

初回授業で指定する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	学際分野特殊研究（力学系の理論と応用）		
教員名	藤垣 芳文		
科目ナンバー	2230753010	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要			
<p>微分方程式の「解」の求め方についての基礎知識を学び、その方法を社会現象や自然現象の分析に応用する力を養う。さらに、微分方程式の平衡点および解曲線の「分岐」に関する初歩の理論を学習し、それを複雑な社会経済問題に応用することを試みる。解析的方法によって厳密に解ける微分方程式は限定されるので、そうでないものを取り扱うための線型近似やコンピュータによる数値計算の方法にも、いろいろな例題を通して慣れ親しむ。</p>			

到達目標			
<p>【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解)、DP3(研究能力及び発信力) 【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解)、DP7(論理的思考力)、DP8(総合マネジメント力)、DP9(他社との協働)、DP10(表現力及び発信力) 【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解)、DP12(研究能力及び発信力) 【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解)、DP17(論理的思考力)、DP18(総合マネジメント力)、DP19(他社との協働)、DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。</p> <p>(1) 自然現象や社会現象を微分方程式を用いてモデル化する力を養うこと。 (2) モデル化によって立てた微分方程式を、厳密に、あるいは図形的、ないしは近似的に解く方法を身につけ、それから得た結果を分析することで問題解決につながるための科学的な考え方や方法を習得すること。</p>			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)	
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	序論・現象のモデル化と微分方程式		
	配布資料を用いての予習復習	90	
第2回	状態の変化に関するいくつかの例題		
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90	
第3回	1階微分方程式		
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90	

第4回	2階以上の微分方程式	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第5回	連立線形定係数微分方程式	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第6回	非線形微分方程式	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第7回	平衡点の分岐	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第8回	リミットサイクル	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第9回	ホップ分岐	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90

第10回	応用のための準備・経済主体の最適化行動入門	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第11回	応用1・市場を介した企業間の相互作用	
	配布資料を用いての予習復習	90
第12回	応用2・経済過程における内生的循環	
	配布資料を用いての予習復習	90
第13回	応用3・環境問題と環境税政策	
	配布資料を用いての予習復習	90
第14回	応用4・国際貿易と一般均衡	
	配布資料を用いての予習復習	90
第15回	復習とまとめ	
	配布資料を用いての復習	120

授業の方法

講義を中心に授業を進める。毎回、プリントを配布し、それにもとづいて講義を行う。

成績評価の方法

授業中に不定期に実施する小テストと期末レポートを総合して評価する。評価の割合は、平常点50%、期末レポート50%を予定する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 11-2.

上記、達成目標の達成度にもとづいて評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識として「微分・積分」等の解析学の基本、「ベクトル・行列」等の線形数学の基本が必要。

テキスト

テキストは使用しない。毎回、担当者が作成した資料を配布する。

参考書

ローレンツ・H・W 著『非線形経済動学とカオス』，日本経済評論社，2000

桑村 雅隆 著『パターン形成と分岐理論』，共立出版，2015

新貝 寿明 著『徹底攻略 常微分方程式』，共立出版，2010

Strogatz, S. H., Nonlinear Dynamics and Chaos, 2nd ed., Westview Press, 2015

Wolfram, S., An Elementary Introduction to the Wolfram Language, 2nd ed., Wolfram 社のホームページからダウンロード可能

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	Current Topics		
教員名	山上 浩明		
科目ナンバー	2030760003	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要			
<p>テーマ：環境政策論</p> <p>すでにその重要性が広く認識されている環境問題とその対策について学ぶ。環境問題は、対象となる現象やその利害関係者の地域的・大域的な規模に応じて対策が異なる。そこで、本講義はいくつかの文献を通して、環境問題の歴史や対策を紹介する。さらに、環境問題の利害関係者として、規制当局・企業・家計（プレイヤー）の意思決定について経済学・ゲーム理論の枠組みで考察する。</p> <p>尚、本講義は、社会現象の一例として環境問題を取り上げる予定だが、受講者の興味に沿ってテーマを一部変更することもできる。</p>			

到達目標			
<p>【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解)，DP3(研究能力及び発信力)</p> <p>【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解)，DP7(論理的思考力)，DP8(総合マネジメント力)，DP9(他社との協働)，DP10(表現力及び発信力)</p> <p>【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解)，DP12(研究能力及び発信力)</p> <p>【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解)，DP17(論理的思考力)，DP18(総合マネジメント力)，DP19(他社との協働)，DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。</p> <p>①社会現象の経済学的表現について理解することができる。</p> <p>②社会現象を経済学的に表現・解説することができる。</p>			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)	
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス 講義で取り扱うテーマ・文献・資料について話し合う		
	【予習】興味のあるテーマについて事前に自身で調べる。 【復習】提示された資料に目を通す。	90分	
第2回	ゲーム論と社会・個人		
	【予習】資料に目を通す。自分で経済学的な解釈を試みる。 【復習】講義内容を踏まえて、自分現象に関する理解・解釈を推敲する。	90分	
第3回	環境政策と経済学：外部性・最適性・効率性		
	【予習】資料に目を通す。自分で経済学的な解釈を試みる。 【復習】講義内容を踏まえて、自分現象に関する理解・解釈を推敲する。	90分	

第4回	環境政策と経済学：税・排出権取引・環境評価・経済合理性	
	【予習】資料に目を通す。自分で経済学的な解釈を試みる。 【復習】講義内容を踏まえて、自分現象に関するの理解・解釈を推敲する。	90分
第5回	ゲーム理論の概要：公共財供給・植樹ゲーム・ナッシュ均衡	
	【予習】資料に目を通す。自分で経済学的な解釈を試みる。 【復習】講義内容を踏まえて、自分現象に関するの理解・解釈を推敲する。	90分
第6回	ゲーム理論の概要：囚人のジレンマ・協力と交渉・提携とコア	
	【予習】資料に目を通す。自分で経済学的な解釈を試みる。 【復習】講義内容を踏まえて、自分現象に関するの理解・解釈を推敲する。	90分
第7回	戦略型ゲーム：植樹ゲーム・汚染と摘発・混合戦略	
	【予習】資料に目を通す。自分で経済学的な解釈を試みる。 【復習】講義内容を踏まえて、自分現象に関するの理解・解釈を推敲する。	90分
第8回	戦略型ゲーム：ナッシュ均衡の存在・公園清掃ゲーム・パレート最適戦略	
	【予習】資料に目を通す。自分で経済学的な解釈を試みる。 【復習】講義内容を踏まえて、自分現象に関するの理解・解釈を推敲する。	90分
第9回	公共財ゲーム：公共財の自発的供給問題・ナッシュ均衡の唯一性・安定性	
	【予習】資料に目を通す。自分で経済学的な解釈を試みる。 【復習】講義内容を踏まえて、自分現象に関するの理解・解釈を推敲する。	90分

第10回	公共財ゲーム：利他性・公共財評価の非対称性	
	【予習】資料に目を通す。自分で経済学的な解釈を試みる。 【復習】講義内容を踏まえて、自分現象に関するの理解・解釈を推敲する。	90分
第11回	資源ゲーム：再生可能性資源・オープンアクセス・コモنزの悲劇	
	【予習】資料に目を通す。自分で経済学的な解釈を試みる。 【復習】講義内容を踏まえて、自分現象に関するの理解・解釈を推敲する。	90分
第12回	資源ゲーム：反応関数とナッシュ均衡・問題の一般化	
	【予習】資料に目を通す。自分で経済学的な解釈を試みる。 【復習】講義内容を踏まえて、自分現象に関するの理解・解釈を推敲する。	90分
第13回	交渉ゲーム：コースの定理	
	【予習】資料に目を通す。自分で経済学的な解釈を試みる。 【復習】講義内容を踏まえて、自分現象に関するの理解・解釈を推敲する。	90分
第14回	交渉ゲーム：被害と削減費用の水準	
	【予習】資料に目を通す。自分で経済学的な解釈を試みる。 【復習】講義内容を踏まえて、自分現象に関するの理解・解釈を推敲する。	90分
第15回	交渉ゲーム：ナッシュ交渉	
	【予習】資料に目を通す。自分で経済学的な解釈を試みる。 【復習】講義内容を踏まえて、自分現象に関するの理解・解釈を推敲する。	90分

授業の方法

講義形式、もしくは輪読形式にて進行する。

成績評価の方法

授業の方法に応じて以下の2通りのうちどちらかを採用する。

【輪読の場合】報告と講義への積極性(100%)

【講義の場合】講義への積極性(50%)とレポート(50%)

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準(学則第11条の2)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

①環境問題の経済学的・ゲーム論的定式化を理解することができる。

②環境問題をとりあげ、経済学的・ゲーム論的に定式化することができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

ミクロ経済学・ゲーム理論の基礎についての知識があると、講義理解の助けとなる。

(また、開講前に受講者の興味・関心などをメールなどで教員に伝えてもらってもかまわない。)

テキスト

鷲田豊明(2010)『環境ゲーム論 対立と協力、交渉の環境学』ぎょうせい (ISBN978-4-324-08949-1) 定価2,000円

参考書

[1] Parkash Chandler (2018) "Game Theory and Climate Change" Columbia Univ Press, ISBN-10: 0231184646

[2] Ariel Dinar, Jose Albiac and Joaquín Sánchez-Soriano (2008) "Game Theory and Policy Making in Natural Resources and the Environment" Routledge Explorations in Environmental Economics, ISBN-10: 9780415774222

[3] Charles D. Kolstad著, 藤田・細田監訳(2001)『環境経済学入門』有斐閣

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。